

S . 5 4 . 5 . 1 3

総 会 風 景



富 岡 北 野 中 井 小 山 会 長



由 久 山 村 富 酒 平 平
佐 保 口 田 岡 井 野 石

555



大阪市大戦 60 回大会 観戦中の神戸 OB S. 54.7.22

山田 副会長	北	野 萩	平
	村	田 原	岡



懇親パーティーに於ける大阪側 OB S. 54.7.22

岩橋 会長	近	進 田	東
	藤	藤 中	野



凌泳会東京支部

1979.12.13

於 セブンシティ



S.54.12.13

凌泳会東京支部納泳忘年会
(新宿セブンシティにて)



S . 5 4 . 8 . 2 5

近一 国 体 （彦根総合運動SCにて）



S . 5 4 . 9 . 2

旧三商大戦（一橋大学にて）

目次

(表紙題字 藤井正太郎先生)

水泳部の想い出……………	会長 昭7学	小山賢之助	2
第六回マスターズスイミング			
フェスティバル参加の記……………	昭27学	石井 義章	4
流れかけた三商大戦……………	昭37E	山田 貴彦	5
凌泳会東京支部納泳・忘年会……………	昭34E	北村 敏	7
東京支部便り……………	昭34E	山田 貴彦	8
初 泳 ぎ……………			8
市大戦六十周年にちなんで……………			
市大戦の想い出……………	市大恒泳会々々長	岩橋 襄	9
神大戦に思う……………	市大水泳部主将	泉谷 昌彦	10
さわやかな対抗戦……………	副会長 昭7学	山田 常雄	11
市大戦の想い出……………	昭16学	前田 寿	12
大阪市大定期戦六十回大会の事……………	昭27学	石井 義章	13
十回生の想い出……………	昭37P	米田 啓祐	14
水泳部長山田先生御尊父御逝去の事……………	昭27学	石井 義章	16
作田耕三君のこと……………	昭3高	白井 儀三	17
テッチャン……………	昭13学	伊藤 英二	18
鈴木啓介君を偲ぶ……………	昭16学	山口 宗樹	20
会員からのお便り……………			
総会案内状返信より……………			21
月見の宴案内状返信より……………			29
現役部員奇稿……………			
リーダーとして一言プラスα……………	主将 上田 剛弘		39
シーズンオフについて……………	副将 芝 暢彦		40
メモリアル……………	水泳部キャンデイズらん		41
新入部員感想ノートより……………			42
昭和五十四年度戦績報告……………			46
現役部員ベスト記録一覧……………			63
歴代十傑表……………			65
昭和五十四年度凌泳会總會報告……………			71
昭和五十三年度決算報告……………			72
昭和五十四年度予算……………			73
昭和五十四年度凌泳会費・寄付金離出者御芳名……………			74
昭和五十四年度行事報告……………			76
凌泳会会則……………			77
凌泳会役員名簿……………			80
凌泳会会員名簿……………			81
「商神」「応援歌」「水泳部部歌」楽譜・歌詩……………			103
編集後記……………			

水泳部の想い出

昭7学 小山 賢之助

神大水泳部主務の白子君から、五十年前の学生生活、クラブ生活について何か書け、との注文があった。年を取ると二、三年前の事は忘れるが、五十年前の事は案外憶えているものである。財界に限らず成功者には、「私の履歴書」などというものがあって、書物にもなるのであるが、私の様な平々凡々のものには何も残すものがない。せめて凌泳誌にでも書いておくといいと思う。現在の人は、現在の事を凌泳に書いておいてくれるとよいと思う。何十年か後に水泳部の連中が、ヒョットしたら、読んでくれるかも知れない。

私は大正十五年四月神戸高商予科第二部に入学した。一部が中学出身、二部が商業出身であった。母校が昭和四年大学に昇格して、商業大学となり、何ということなく、そのまま大学に行つて六年間を上筒井で暮らした。

この期間は、我が邦で物価の最も安定した時であった。と言えは聞こえはいゝが、一番貧乏な時であった。政府が札を出さないものだから、一般人民の懐に札が廻って来ず、少数の人を除いて、大衆は貧乏であった。

既に亡き人となった、元日本社会党書記長江田三郎は、私と同級で、善隣商業出身の二部の学生であったが、神戸の大学へは行かず

に東京商大へ行った。彼は旅行が好きで夏休みに東北旅行をしたが、汽車で食事をして汽車弁の箱を捨てると、貧農の子供が、箱についている米の粒を争って、拾って食べた。又その頃東北の娘は、東京へ女郎に売られてきたという。この現実が、彼を社会運動に挺身させることとなった。



昭和51年高商24回生クラス会の折

左より江田三郎、小山賢之助、小山夫人

当時の神戸の学生は、一室と、一日二食の食事代と合計して、下宿代が四十円から五十円位であった。大学の授業料は十円、学友会

費が一円位であったと思う。貧乏学生であった私は、常に之を滞納し、授業料未納の左記の者は早やく納める様にといい揭示に載る常連であった。

四十円の下宿代などとも払えないので、当時、「イエスの僕会」というキリスト教の青年団体があったが、私は之に参加し、数人の同信の友達と一軒の借家を借りて、自炊生活をした。大体月の経費二十円ですんだから、之は助かった。日本経済新聞の大平首相の、「私の履歴書」によると、氏は高松高商時代、この会に入会して居る。私供の借りた家を相愛寮と称していたが、神戸で「イエスの僕会」の總會があった時、高松高商生であった大平氏は、相愛寮に見えたという記憶がある。私は、水泳部では幹部の一人であったが、僕会では「ふんどしかつき」であった。当時僕会の幹部であった今井嘉久君は、大平氏と親交があり、氏の「履歴書」の中に名前が載っている。

今井君は私と天王寺商業からのクラスメイトで熱心なクリスチャンであったが、早やく亡くなった。

学友会費を財源として、運動部に部費が支給されたが、水泳部は最も少ない部で、九十円位しか貰えなかった。一番の金持は庭球部で、九百五十円位であった。昭和元禄の現在、「ハングリー、スポーツ」という言葉があるが、当時の運動部の選手は概して、ハングリーであった。それでも庭球部には、M財閥の筆頭常務F氏の次男が居り、外人教師宅に下宿して、下宿代三百円（一ヶ月アスノ）

と称せられた。

部費は遠征費に支出されたが、当時大阪―東京間の汽車賃は、学割を利用すると四円九十銭位で、特急料円は一円であった。特急といっても、当時大阪―東京間十一時間かかった。

昭和二年、対東京商大戦は大阪で行われ、東京のチームの大阪到着時間が電報で通知されてきたが、その時間に着く列車は、一、二等特急寝台車である。二等とか特急寝台は学割がないから、我々が六円位で片道行くのに、この列車では二十五円位かかるのである。当時本科三年であった作田先輩は何かの間違いだと言って、大阪駅へ迎えに行かない。

馬鹿正直な私は、それでも定刻に一人で迎えに行ったところ、寝台車から東京の一行十数名が降りて来た。「東京は金持ちだなア」と感心したものである。

考えて見ると私が二四回生で、一五回生の白山先生が水泳部を創設されたのであるから、私が最高学年となっても、九年分しか先輩が居ないのであるから、凌泳会というような組織もなく、凌泳会員はなかったから、先輩の寄付は全部現役の強化費となった。大体一人五円寄付して貰うこととしていた。卒業後日が浅いので多額の寄付は出来ないのである。先輩の中に、朝鮮貴族の出身で愈兆兼、日本名で山村馨という人があった。

この人は何か事業をされて居ったが、事業の思わしくない時は、行方がわからない。景気がよくなると、何処からともなく現われて

競技会の応援に来て下さるのである。「ピッチを上げて……」とプールサイドの応援にも熱がこもっていた。そして大枚二十円の寄付を買った事があった。戦後昭和二十四年であったか、伊藤忠の本店に籍をおいておられたが、九州へ転住され、間もなく亡くなった。惜しい先輩であった。

第六回 マスターズスイミング

フェスティバル参加の記

昭7学 小山 賢之助

オリンピックで五十六年振りに入賞皆無であった、モントリオールとは関係なく、この頃はスイミングクラブの競技会が盛大に行われている。

第六回マスターズは昭和五十四年九月三十日、東京巢鴨の東京スイミングセンターで、参加クラブ八〇、参加者一、二一一人で盛大に行われた。二〇才以上をA、二五才以上をB、三〇才以上をC、五才きざみで別個の競技となり、一度に数十人が泳ぐのであるが、着順及びタイムはクラス別に発表される。東京泳泳会は、Kクラス（七〇才以上）に小山賢之助、三〇才以上に阿部洋三が参加して、次の様な結果であった。所属は両者共東京YMCAである。

Cクラス 阿部洋三

100米 バタフライ 優勝 1分12秒0

50米 バタフライ 二位 32秒4

Kクラス 小山賢之助

25米 平泳 優勝 21秒1

50米 平泳 優勝 47秒8

A、B、Cという様な若いところは参加者が多いが、Kとなると、フリー、背泳、平泳、何れも一人づつで、出れば優勝である。J級即ち六五才以上は誰も居ないから、少くともここ5年は、小山は安泰である。L級即ち七五才以上は、今の処参加者0である。

昭和の始め、東京高師に吉岡隆徳という陸上短距離の名選手が居た。彼はロサンゼルス・オリンピック（昭和七年）百米で決勝に残り、四〇米位迄はアメリカの黒人選手を抑える位にスタートダッシュが早く、「暁の超特急」と綽名された。若い時の百米の彼のベストは10秒1、世界対記録であった。昨年彼は満七〇才の誕生日に百米を走って、記録は15秒1、七〇才の百米の世界記録は14秒6、之を破れなかったのである。それにしても彼の若い時の記録に比し、七〇才の記録は約48%おそい。

私の記録は無論世界記録ではないけれども、若い時は五〇米36秒位であったから、47秒8は私としては不満な記録ではあるが、若い時の33%増にしかならない。他の背泳の七〇才以上の市橋満之助（慶応OB）は、若い時34秒位で、七〇才以上で44秒2、であったから、これ又30%増である。フリーの山本晴武（慶応OB）は、27秒が、35秒6、即ち約32%増であった。陸上は足だけであるのに

対し、水泳は手を使うからであらうか、老化現象は少いのである。然かも吉岡は体操の先生で一日走っていて商売になるが、水泳の三人は単なるサラリーマンで水泳で飯を食っているのではない。市橋、山本共に学生時代の強さは大体小山と同等で、全国インカレの決勝出場スレスレの選手であった。

流れかけた三商大戦

昭27学 石 井 義 章

別項大阪市大戦の事で岩橋恒泳会々長と打合せをしている時、話が旧三商大戦の事に移った。

神戸、大阪両高商が大学に昇格したのが昭和四年、これで東京商大と合せて日本に商大が三つになり、この年を第一回として三商大戦（正式には全日本商大水上競技大会）が始まった。

とすれば今年には正に五十周年である。五十年と云うのは大きな節目だ。これは是非記念大会として盛大にやらねばならぬ。しかし気がつくのが遅かった。競技予定は八月十九日、あと一月半しかない。これでは市大戦同様プログラムの編集も出来ない。どうしたものかと思案していた所、昨年のプログラムを出してみると第四十六回となっている。回数が合はないので不思議に思い、古い記録を調べてみると、大東亜戦争の為昭和十八年から二十一年迄の四年間開催さ

れなかったらしい。従ってこれは回数に数へず実際に開催された大会だけを数へて今年には四十七回になる。因に、大阪市大戦の方は、やはり大戦中は中止になったが、こちらは、大正九年を第一回として毎年回数を付し、今年が六十回になる訳だ。

まあそう云う事で三年先の五十回大会を盛大にやる事にして、今年には特別な大会としない事で一件落着した。

所が今度は開催日について東京、神戸間で折合がつかず難航しているとのニュースが入った。今年の当番校は東京だが、東京は部員の帰省その他の関係で七月下旬に開催したい意向。一方神戸は今年も全国国公立戦団体出場がはゞ確定的で、八月十四・十五日に筑波大学迄遠征を予定している。神戸としてはこの前後に三商大戦を持って来て旅費を一回で済ませたい訳だ。凌泳会に金があれば二、三十万ポーンと出して、これだけで行ってこいと云いたい所だが、会費さえまとまらぬ場合にそんな余裕は到底ない。

どうなることかと心配していたが、結局、今年には当番を交代し東京が神戸に来てくれる事にして七月二十九日六甲台プールで開催する事になったと云って来た。

やれやれと一安心していた所、試合を三日後に控えた二十六日、又々大変な問題が持上った。と云うのは、二十二日の市大戦を終り、一週間後の三商大戦に備えて六甲のプールで合宿していた吾が部員に集団風邪発生、十数人が発熱し、元気な者僅に四、五人との事、その上、大学の保健局で調べてもらった所、ビールス性の病原菌が

プールの水に蔓延し、水を抜き替えぬ限り使用不可と云われた由。ご承知の通り、うちのプールはそう簡単に水の入れ替えが出来ないと云ってこれから代替プールを探すと云っても無理だし、仮に見付かったにしても神戸側四、五人では競技にも何もならない。結局今年は中止せざるを得ないと云って来た。

神戸の都合で色々無理を云い、東京には当番交代して神戸へ来てもらう事にしたのに、予想外の事とは云へ、ホスト側の神戸の都合で中止の止むなきに至る。誠に残念である。五十年に及ぶ歴史の中で戦争で中断した四年を除いて連続として引継がれて来たこの試合をこんな事で中断するとは、両校先輩に何と云ったものか。

とにかく競技については学生相互間で中止と決定した以上、吾々OBが強制出来るものではない。しかし、両校OBにはその旨連絡してお詫びを云はねばならぬ。早速小山会長に事情報告し、一橋OBに然るべき挨拶をお願いすると共に、大阪側へは私から恒泳会々長岩橋氏に電話し、平身低頭お詫びを申し上げた。

以上の通り、一時は断念した三商大戦であったが、八月十四、十五日の全国々公立戦を終って帰神した学生より、九月二日に東京で三商大戦を開く事になったとの嬉しい知らせが入った。

その経緯は、全国々公立戦に一橋の主将、常盤君がバタフライに出場権を得て個人参加していた。そして、三商大戦が流れる事は何としても残念だ。OBも何とかならぬものかと云っていると、その晩神戸の宿舎に来てもらい、大阪もまじえて種々協議の結果、前記

の通り再開に漕ぎ着けたと云う。

何とも嬉しいニュース。紆余曲折はあったにしろ、流れずに済んだ事は何よりだ。勿論、単に実施さえすればよいと云うものでもないし、又、徒に歴史が古い事が尊いでもないけれど、やはり半世紀に亘って続いて来たと云う事は歴代の部員が夫々努力をして来た事でもあり、それなりに意義のある事だと思う。一時は三商大なんて古めかしい名称の試合に、今の学生は特別な感慨も意義も感じないのだからかと僻みっぽい気持も持ったが、やはりそうではなかったと云う安心と満足感が私の胸に広がって来た。

戦後三商大は夫々違った道を辿り、一方、商大と名のつく大学は今や全国にいくつあるのか数も知らないが、かつて三ツしかない商大として、特別な関係にあったその歴史を忘れず、又伝統あるこの競技会を絶やさぬ様、いつまでも続けられる事を祈りつつ、この報告文を終わります。

追記

昭和五十七年には三商大五十回大会を盛大に開き度いと思います。それまでに五十回の全記録を整理したいと思っておりますので、古い記録、プログラム等お持ちの方は、探しておいて下さい。

凌泳会東京支部納泳・忘年会

昭37 E 山 田 貴 彦

凌泳会々員約二十名のうち、東京地区に八十名近い人が在住しているというので、小山会長より「一度集まってみようじゃないか」とのお声がかゝり、暮もおし迫った十二月十三日に納泳会を兼ねて忘年会が開かれることとなった。会場は、河童が集まるのだから、できれば一泳ぎできるところの方が好ましいとのこと、富士電機設備機器部の井上隆史氏（B一〇卒）のご好意により、開店間もない新宿の「セブンシティ」（厚生年金基金連合会センター）を利用して頂いた。

当日は、年の瀬を控え、何かと忙しい折ながら、小山会長はじめ太田正元（学七）山口宗樹（学一〇）平岡邦允（学一〇）大先輩など、東京在住者の約三分の一近い二十七名が参集し、久しぶりに開かれた東京支部の集いは、大変楽しいものとなった。定刻六時迄に來会できた小山会長はじめ約十人余りの人は、二十五メートル・八コースの温水プールで、お互い少々ボテ気味の身体を冷やかし合ひながらも、ダッシュ・ダッシュを繰り返して、凌泳健児の健在ぶりを示していた。（隣りのコースに、アクアラング講習を受けに大勢のビキニ嬢が来ていたことゝは無関係とは思ふが）。

一泳ぎしたあと、ビールとフランス料理による忘年会には、卒業

以来はじめてという懐しい先輩・後輩の顔が見られ、誰方も学生時代の想い出や近況報告、さらには今後への抱負など話したい事は山程あるようで、一人三分のスピーチもついオーバーし勝ちだった。

小山会長の「年間目標百キロメートル完泳」、富岡先輩の「親子二代凌泳会員」、井上、丸山両氏の「兄弟会員」、井上氏の「親子二代会員の悲願」（氏のご子息は中学一年生ながら、百米一分一〇秒前後の実力とのこと）など、会員諸氏の水に対する情熱は止み難いようで、当日の出席者だけでも、大正七年卒の小山会長から、昭和五十二年卒の丸末・伊藤両君まで六十年にわたって泳ぎ継がれてきた凌泳会の伝統の持つ意味を、一同再認識した次第だった。

最後に恒例の「商神」を斉唱し、三々五々、夜の新宿に散会したのは十時近かった。

「当日の参会者」（敬称略）

（会長） 小山賢之助

太田 正元（学7）	山口 宗樹（学10）	平岡 邦允（学10）
富岡 道雄（新4）	石本 茂樹（新6）	岡見 晴児（新6）
野田 浩志（新9）	井上 隆史（新10）	竹元 忠彬（新10）
山田 貴彦（新10）	丸山 卓也（新11）	荒井 康之（新11）
鈴木 剛弘（新11）	窪田 信雄（新11）	武政 英幸（新12）
鈴木 正弥（新12）	前田 和秀（新13）	樋口 周平（新14）
阿部 洋三（新15）	熊岡 禎二（新17）	岩切 博（新19）
瓜生 誠二郎（新23）	細谷 明夫（新24）	丸末 一之（新25）
伊藤 良一（新25）	佐々木 力（特別会員）	

東京支部便り

昭37 E 山田貴彦

一、忘年会において、今後の東京支部の世話人として、次の各氏が承認されました。

山口宗樹(学一〇)

富岡道雄(新四)

山田貴彦(新一〇)

樋口周平(新一四)

丸末一之(新二五)

一、次の会合、四・五月頃に「新会員」の歓迎会を催す予定です。

一、東京凌霜会事務局に、「凌泳会東京支部日誌」を設置しましたので、来会者は必ずご署名下さい。近況報告、会員相互の連絡等に、ご利用頂ければ幸いです。(事務局がロッカーを増設する迄は、他のクラブとの共用ロッカーに入れてあります。)

初泳ぎ

昭34 E 北村敏

恒例の初泳ぎが、一月十三日(日)神戸市かるもプールで行なわれた。当日は、朝から雨が降り寒い日であったが、プールの水温は

三十度、いさか暖かすぎるほどであった。

正午すぎ、現役諸君がプールサイドで準備体操を開始し、十分後には、右側三コースを借り切ったプールに次々と水しぶきをあげてとびこんだ。最初四〇〇メートルを軽く泳ぎ、つづいてビート、手かきをこなして、一時間ほどで水泳部練習はじめは終り。

その間、松田(新5)、山口(新5)、北村(新7)、大橋(新19)、平石(新26)の諸先輩が次々に来場し、夫々、思いおもいのスタイルで、現役諸君が、プールサイドから姿を消した後まで、お互いの腹のアブラの厚さなどを話題にしながら、のんびりと文字通り遊泳を楽しんだ。

山口先輩の話によると、「泳ぎは、地球引力の影響を受けず、筋肉をのびのびと使えるので腰痛などには効果てきめん」とのこと。しばらく水から遠のいておられる先輩諸兄もぜひ今年はプールサイドへお帰り下さい。

やがて、石井先輩(学22)が来られ、「風邪気味なので今日は水に入らない。君らもはよ上れ。現役の連中みな待つとるで。」というお話しで、ようやく水から上った次第。

続いて、プールの食堂で、簡単なミーティングを行なう。各人自己紹介をする。多数参加の女性部員も、次きつきに立上り、今年の抱負などを披歴する。昨年の夏、六甲のプールサイドで会った彼女達にくらべ、シーズンオフの彼女達は白色で、知性があふれ、健康的でなんと素晴らしいことよ(ホントです)。混性チームというの

もよいものです。(実は、はじめ女性部員が増えてきたという話を聞いた頃は、水泳部は混性合唱団にでもなるのではないかと心配したものです。)以前は、「女を入れるとプールがよごれるから入れるな」なんて本気で、あるいはひょっとしたら、くやしきぎれに、云っていた人がいたのですが、世の中、まちがいなく変わったのです。

ここで、松田先輩の挨拶の一節、「……………私は、まだ若い、現役諸君の倍の長さ生きて、泳いでいる……………」。

当日の参加者、OB五名、現役二十三名、
終つて、外へ出た頃には、雨はすっかり上り、青空が見えていた。

市大戦六十周年にちなんで

神大戦の思い出

大阪市大恒泳会々長 岩 橋 襄

今回図らずも神大凌泳への奇稿のチャンスを与えられ感激致して居ります。

神大戦の思い出を書けとの事ですが、小生昭和十七年に市大に入學して以来、今日迄毎年欠かさず参加させて頂いて居りますが、何と云いましても自分が現役十七、二十二年の時の思い出が一番強烈に残つて居ります。十七年は既に太平洋戦争が始まつて居りまして、

神大プールへ行く時も阪急六甲から徒歩で山登り、やっと校門へ辿りついた所、まだ入口からプール迄可成りの距離にうんざりさゝれ、た印象が強いです。十八年は大阪市真田山プールで開かれまして、競泳は大プール、ボロは小プールでやった様に記憶致して居ります。当時神戸には森田さん、君塚さん、井川さんと頑張りやが居られたと思います。十九年、二十年は戦時下で中止され、小生復員後二十一年大阪高等学校プールで再開され、兵隊帰りの連中が戦後の食糧不足下に拘らず元気に活躍されました。中でも井川さんの活躍は立派なもので、水球では勝つたものゝ、競泳では大きく水をあげられました。井川さん以外にも三宅さん、伊藤さん、武内さん、岡さんと多士済々であつた様に思います。

中でも岡さんとは小生、中学校の同級生でもあつた関係で、じつことに願ひ五、六年前三井銀行西田辺支店長として赴任された時もわざわざ御訪ね頂き有難く思つて居ります。

マネージャーには小西さんが居られ、色々御指導頂き一緒に三商大を復活さす為に走り廻つた様に思います。二十二年は確か宝塚プールで開催され、前年と同じ様な成績でしたが、何分食糧不足の時代とて当方の八木マネージャーを督励して玉葱や米を買出しに行かせ、何とか試合に出られる様にした思い出が、三十三年たった今でもありありと思ひ起せる次第です。卒業してから三十三年間、市大の面倒を見させて頂いて居りますが、其の後も古林先生、小山先輩始め神大OBの方々にお世話になり大変有難く思つて居ります。小学校

以来今日迄数え切れない方にお世話になって居りますが、其の中で市大で水泳をして居ったが為に神大OB、現役の多くの方に面識を頂いた事は、私の大きな財産であると思つて居ります。神大・市大の対抗戦も既に六十年の歴史を迎えました。今後十年二十年と続く事と思います。小生も体の許す限り二十一世紀迄、御伴致したいと思つて居ります。

神大戦に思う

大阪市大水泳部主将 泉 谷 昌 彦

「早関戦を凌ぐ日本最古の対抗戦」一回生の時の神大戦での開会式でそう聞かされた時、私は両校の、そして両校水泳部の伝統の重さをひしひしと感じたものでした。両校が創立された当時、日本で会計の講座が設けられていたのは神大と市大と一橋大だけであったというだけの事ですが、官立の帝国大学に対し共にライバル意識を燃やし、一種独特の校風を築きあげていったとも聞かされました。そしてお互い、いろいろな面で良きライバル同志であったとも聞かされました。しかし現在の神大戦はどうでしょうか。終始和やかなムードで試合が行われ、六十年の永きに渡って両校の先輩方が鋭を削った大会とは思えない状態です。一つには両校共公式戦重視の方針で、なかなか各部長がベストの状態では試合に臨めない事があるで

しょう。一つには、OBの方々の御参加が今ひとつ活発でない事もあるでしょう。しかしそれらを総括した根底にある大きな原因は、我市大水泳部の低迷にある事は残念ながらもはや疑いの余地は残されていないのです。中尾さんに「お前ら頼むからもっと強くなってくれよ。」としみじみと言われた時は、本当に情けない思いでした。昨年六十周年記念のパーティーが神大で盛大に催されましたが、何故マスコミが取材に来ないんだ——両校OBの壮々たる顔触れを見るにつけ、その思いを一層強く持たざるをえませんでした。

しかし市大も昨年少望新人が数多く入部し、神大に一矢報いる為に全員意欲的に取りくんで来た結果、競泳の方は依然戦力の開きが大きい様ですが、こと水球に関しては互角に戦える——これは私の性格同様、非常に控え目な表現である事に注意——確信を持つに至りました。恐らく今シーズンの神大戦では激しい点の取り合いが予想されましょう。積年の借りを返すつもりで我等一同がんばりますので、よろしくお願い致します。

色々下らない事ばかり書いてしまった様ですが、杉山さん、慈善さん、中尾さんらの前四回生の先輩方をはじめ、昨年主務をしておられた森鼻君、市大のアイドル芝君、そして瀕死の重傷から不死鳥の如く甦った、換言するなら、死に損いの上田君等には一方ならぬお世話を受け、本当に謝意を表する言葉に窮する次第であります。

私事で恐縮ですが昨年の全国々公立戦の後、筑波大学の寮の狭い一室で、上田君達と飲みながら神大の恥部を聞かせてもらった事や

三商大戦のコンパの後に起った恐怖の「写真事件」、神大戦のコンパでの狂気沙汰などはほろ苦くそして楽しい良き思い出となるでしょう。そや、今シーズンの神大戦のコンパはまだ終ってないんや、オエーノ

なかなか鋭くしつかりと下らない事を書き続けておりますが、お互い卒業し社会に出るとなかなか会う機会に恵まれなくなると思います。しかし単なる後輩の激励ではなく、神大のみなさんとの旧交を温める意味で、神大戦には出来る限り顔を出す所存です。

では最後に両校水泳部の栄光と一層の発展を祈り、シャープペンを置きたいと思えます。

さわやかな対抗戦

昭7学 山 田 常 雄

昨年夏、対市大戦が六十回目にあたるということで応援に出かけた。私は卒業後四十七年目になるが、入学の時から勘定すると五十年になる。大学が出来たのが昭和四年であるから、その時既に十回目の対抗戦だったわけである。当時の歴史については、会長の小山君が詳しく浸泳誌に書いて居られるから省くが、要するに両校は、勝ったり、負けたりで、大した差はついていない。一人強い選手が入ればすぐバランスがくずれるのである。そこで何とか強い選手を入れ

ようと勧誘に出かけるという事になる。実はこれについて、一つの悲しい思い出がある。

長崎高商（現長崎大学）にK君という中距離の選手がいた。何とかして神戸へ来て貰おうと思って長崎まで出掛けて行った。同君曰く、自分は是非行きたいが、母親が難しい。母親さえ許してくれば喜んで行くというので、同君の郷里である久留米へ行き、お母さんに会って、進学をすゝめてみたが、お母さんは「母一人子一人であり長崎へやるのさえ中々の事だったので、卒業したら当地で就職して母子一緒に住みたいので、神戸へなどやりたくない」と言っていて中々承知されなかったが、息子がどうしても行きたいのなら仕方がないという事で、渋々承諾された。

同君は成績もよかったので無事入学した。そうして早速水泳部へ入って貰ったが、まだ水が冷たい中から練習を始め、毎日トップリ日が暮れるまでプールにいるので、オーバーワークになってはいけないと、時々注意をした事もあった位だった。三商大、大商大戦も無事に済ませて、暑休で同君は郷里へ帰って行った。ところが、九月に入り授業が始まったも同君は出て来ない。気になって問合せたところ、意外なことに、K君は郷里へ帰って暫くして発病し、八月末頃亡くなったというのだ。全く信じられない事だったが、それが事実とわかると、あゝ自分は何と心ない事してしまったのであろう。同君にもすまない事だったし、お母さんの嘆きを思うと何と言ってお詫びしてよいか分らなかった。

今でもその時の事を思うと胸が痛むのである。それから勧誘という事はやらぬ事にした。何もそんなにしてまで勝つ事はないのだ。無論対抗戦だから勝つために猛練習はやる。当日最高のコンディションで全力を出して泳げば、勝てればよし、負けても何の悔いもない。「昼はプールで腕くらべ、夜はビールで飲みくらべ」といったような実にさわやかな対抗戦なのである。今でも当時ライバルであった戦手達の事を思うと懐しい。

昨年の試合後のパーティで大阪方のOBの方々に、その人達の消息を聞いたが、元気でやっているという事聞いただけで満足した。卒業して各分野に別れてしまうと、個々のにも中々会えないし、まして一同に会するというようなことは到底出来るものではない。そのためにも凌泳誌は中々貴重なのである。

市大戦の思い出

昭16学 前 田 寿

大阪商大戦の思い出と云うのが注文であるが、私にとって水泳部時代の回想は青春を語った友の顔が浮んでくるだけで、あの試合、この試合と云った個々の場面は、すっかり忘れて記憶のうちにならない。何時までも昔を忘れず懐しかっているのは老人の証拠でもあろう。

「凌泳誌」も同様で過去の事実は書きとめて置いて貰はないと困

るが、回想録のようなものは現役を離れて間も無い若いOB諸君からのものでないと余り有用ではあるまい。しかし折角のことであるので、一応の責をはたしたい。

さて、大阪商大戦が私に何を残していたであろうか。プールから見上げた青い空と白い雲。スタンドの左上方に位置していた二人の若い洋装美人。大会終了ごの富田屋での宴席。この三点だけである。大阪商大戦には毎年出た筈であるが試合そのものについては前述のように全く記憶にない。この三点も何時の年度のものであったかは定かでない。多分、一年生の時であろう。

「あの二人を知っているかい」「知りません」「あれは芸者さんだ。お目当ては〇〇さん」と教えて貰ったのは二年生の鈴木啓介さんであった。芸者さんは昼でも着物を着用していると思っていたし、まして、学生の応援に来る等は思いもよらぬことだっただけに、文字通り唖然としたのであった。このねえさんと夜の席で顔を合せたことは云う迄もない。

富田屋の経営者である大谷先輩のほか、村上、和泉、部坂、恩知らの諸先輩と同期の井上、柏木も逝き、二月の凌霜誌では鈴木さんの訃報を知った。鈴木さんは、生来の明朗さに加え、師・先輩・友人を特に大切にされ、後輩への面倒みも格段の人であり、凌泳としても全く惜しい人を失くしたものである。

大阪商大戦の思い出が鈴木さんの回想となり凌泳編集の意が相違したが、お許し願ひ鈴木さんのご冥福を心からお祈り申し上げます。

大阪市大定期戦六十回大会の事

昭27学 石 井 義 章

六月二十五日、大阪市大水泳部OB恒泳会の岩橋会長より電話あり、今年は大阪・神戸旧両高商水上定期戦の六十回に当る。一つ、盛大に記念大会をやるうではないかと云う事である。

私はこの事をすっかり忘れていた。しかし記念大会として開催するにはそれ相応の準備が要る。過去に記念大会と銘打って開催したのは、昭和十四年の二十回大会と十四年の五十回大会だけで、その時のプログラムは、どちらも藤井正太郎先生始め両校OBの祝辞或は懐古談、又過去の戦績記録等色々な内容を盛り込んだ立派な物が作られている。

競技会は七月二十二日の予定、とすれば後一ヶ月もない。これから原稿を依頼し、記録を整理しておつては到底間に合いそうもない。所が、大阪側は大変な乗気である。文集が要るなら早速手配する。当日はOB二十名以上動員するから、神戸側も小山会長始めその程度は集めてくれ。又、試合終了後懇親パーティーをやるうではないか。会費三千円位で会場を段取りしてくれと仲々具体的だ。

さて、どうしたものかと小山会長に相談した所、文章、プログラム等形式にこだわる事はない。そうする事が両校の親睦を深め、OB、学生の連繫を強化し、ひいては夫々の組織の強化に資するので

あればやったらよからうとのご意見。

そうこうするうちに七月に入つてしまひ、今更どうし様もないので、準記念大会と云う事で、特別なプログラムは作らないが、両校極力OBを動員し、試合終了後懇親パーティーを開催する方向で準備を進める事とした。

会場は幸い大学生協が日曜日だが特別に食堂を開けてくれ、簡単な料理なら準備してくれるとの事。参加人数掌握のむつかしいこの種会合の難問である会場問題がこれで解決しホツとする。後は学生に予算額を云つて準備を進めてもらうのみ。

さて、七月二十二日、試合当日、競技の内容は誰かが詳しい観戦記を書いてくれると思うので割愛。

四時頃全競技無事終了。直に会場を学生食堂に移し懇親パーティーに入る。参加OBは大阪側、岩橋会長を始め、近藤(昭14)、進藤(昭16)、田中(昭18)、東野(昭36)、各先輩に若手OBを加えて十名。神戸側は、山田常雄副会長を始めとして、石井(昭27)、堂本(昭30)、山口(昭32)、北村(昭34)、萩原(昭37)、平岡(昭38)、藤森(昭51)、川本(昭51)、野田(旧・山口・昭51)、の各OBで計十名。この方はキツチリ引分けと云う所だが、年令的にやゝ押され気味。

先ず、山田副会長より大阪側に遠征のお礼、六十回の祝辞、試合の講評等あり、引続き、大阪側、神戸側の順でOBの自己紹介、現役時代の思い出、試合の所感等々話あり、その内次第にビールも回り、

学生に順番の回る頃にはアルコールの勢も手伝って大音声の自己紹介、やがて歌も飛び出し和氣藹々の懇親ムード高まる中、後は若い学生諸君にまかせて、七時頃OB連は山を下りた。

十回生の思い出

昭37P 米 田 啓 祐

市大定期戦がもう六十年を経たということは喜ばしい限りです。六十年の間いろいろな歴史があり、若人の青春を燃やした跡があったことでしょう。

昭和三十三年に入学した私は、ちょうど四十年前後の市大戦を経験していることになるはずです。いつのまにか二十年もの遠い昔のことになろうとしています。おまけに、私自身はすばらしい記録を出したわけでもなく、対抗戦などでもたいした活躍をしていないので、忘れかけていることが多いようです。そんなわけで、この原稿の依頼があった時は、お断わりしようと思っていたのですが、泳編集係の熱心なお勧めもあり、私と同級生であった十回生の人達の思い出を聞きながらまとめることにしたわけです。便りなどでお知らせいただいたことをまとめて『十回生の思い出』といたします。

○ ○ ○

萩 原 武

小生自身の思い出

一年の時二〇〇バタを飛ばされた。

ポロにかり出されてもみくちやにされた。

二年は病気で休み。

三年の時は二〇〇平で建部にやられ、

四年で建部にやっとなつた。

短距離の汐見が一〇〇フリーで強かった。

長距離の寛が黙々と泳ぎトットと語っていた。

ブルのない市大にはいつも申しわけなさを感じていた。

市大にも、進藤氏を初め熱心な先輩がおられた。

○ ○ ○

高 岡 保 宏

確か我々姫路分校勢がはじめてデビューしたのが市大戦だったと思う。一年生の時は汐見さんにさんざんやられ、二年の時に完勝でき気分が良くなったことを覚えている。その時六甲台から帰る途中先輩におごってもらったビールが大変うまかった。

もう一つはつきりしないのであるが、姫路に帰る途中で車中で山口先輩に出会い加古川で下車しお世話になったことである。山口氏はデートの帰りだったようです。

○ ○ ○

竹 元 忠 彬

当時、市大はブルも持たず満足な練習も出来なかった様で力不

足だったようです。少なくとも、我々が現役時代には、対市大戦を重要視していなかったように思います。

また、六甲台で市大戦が行なわれたとき、市大に汐見君というのが居て、我々主催者側チームがブルサイドでテントを張ったりして開催準備を行っている間に軽く一泳ぎしてきた姿を覚えています。赤銅色の体に緑色の水泳パンツが鮮かだった事、そして、一言吐いたセリフが、

「次第(市大)シダイ)、次第(市大)に弱くなる。」
だったことまで忘れられない事です。

山田 貴彦

ご依頼にそえず残念ですが、市大戦についての思い出は余り憶えておりません。

強いてあげれば、二年の折、六甲台ブルで行なわれた時、レースの合間に新人レースとかがありました。丸山と二人で泳がされ、初めて二〇〇平で負けて、以来一度も勝てなくなったという苦い青春のオモカゲを味わったことです。

井上 隆史

市大戦はよく雨が降っていた思い出があります。シーズンの最初の対抗戦は京阪神三大学戦で、それが六月の初めの日曜日にありました。それから、六月の第三週か第四週の日曜日に市大戦があった

と思います。梅雨の最中だったので、雨も多いかったです。

市大戦には諸先輩もよくこられていたようです。白髪の藤井先生がいつもお見えになっていました。古林先生もよくブルにこられて、『年よりの冷水だ』と言われながらも、軽く一〇〇、二〇〇メートルと泳がれていたのには感心させられました。今の我々でさえあんなには泳げないのではないのでしょうか。また、田淵さんなども来られて、私の背泳の指導などよくやっていただきました。

当時、市大にはブルがなく、競泳も、水球も常勝でした。水球のキーパーに西村(?)という人がいたように思います。ゴールの前でシュートしようとする、上から負いかぶさるようになって沈められたものです。沈みながらシュートできたことも忘れられません。

十回生には、まだまだ当時活躍したり、優秀な選手だった人もありますが、私の不手際やしめ切などの関係もあって、右の人達からの思い出だけになってしまいました。

最後に、以上の人達との重複をさけながら私自身の思い出を少し述べさせていただきます。

市大戦には、一種目三名程のエントリーができたはずで、私のようなものもよく出させていただいたと思います。泳いだ結果の得点が例え一点や二点であっても、何かしら貢献できたような喜びもありました。

私は四〇〇フリーや八〇〇フリーに出ていました。二年か三年の時だったと思いますが、隣のコースの市大の人とすごいせりあいをしたことがあります。もう力をぬこうかと思ひながら、それでもそれでも必死に力をふりしぼっていました。ターンのたびに、上からの声援にもはげまされたものでした。たぶん三位あたりを争っていたのだと思います。それにしても、あの時の相手の人は何という人だったのでしょいか。今でも、その時のレースのことは熱い思い出となって甦ってきます。

市大戦がさらによつても発展しながら続いて行くことを願っています。

水泳部長山田先生

御尊父御逝去の事

昭27学 石 井 義 章

七月二十二日の大阪市大戦六十回大会も迫った或る日、出席OBの顔ぶれを知りたいと学生に電話した所、山田先生はお父様が亡くなられたとかで出席頂けそうにないとの事。それは大変だ、早速お悔みに上らねばと思ったが、学生も詳しい事は知らないと言ふ。

二十二日試合当日、萩原君始め集まった、OBに尋ねても誰も知らない。大学当局も日曜日で誰も居ない。仕方なく門衛所に行き、

法学部庶務課職員の私宅の電話を教えてもらい問合せをみる。こゝでやっと十五日にお亡くなりになり、二十一日東京で密葬、本葬は十一月二日、永平寺に於て執り行はれる事を確認出来た。

十五日と云へば丁度一週間前、それに昨日が密葬と云う事であれば先生はまだお帰りでないかもしれないが、幸、今日こうしてOBが集まっているのだから、とにかくお悔みに行ってみようと云う事になった。

市大戦の後の懇親パーティーが終つて、私と萩原幹事、それに野田君の三人で先生のお宅に向つた。

車を走らせ乍ら、本葬が十一月と云う事だがどうしてそんなに間があくのだろう。永平寺とはどんなご関係なのだろうと話合う。その内、御影の裏山、渦ヶ森のお宅に到着。幸、先生は御在宅であった。吾々三人お悔を言上、用意して来た凌泳会からのお香奠をお渡した。先生は司法試験の採点があるとかで、密葬後すぐお帰りになつたとの事、お忙しそうなので、吾々も早々に退去した。

唯、先生が本葬は永平寺で曹洞宗の重だつた僧侶約二千人が集つて行はれます、とふともらされたのがどう云う事なのかよく分らない。帰りの車中、三人で又色々想像をめぐらしたが、日頃先生はお父様の事について、何も話されなかつたのだから分る筈がない。家に帰つて私は早速古い新聞をひっくりかえし、やっと七月十六日の新聞にその記事を見付けた。会員諸兄弟の中にも御存知ない方が多かるうと思うので、ここに朝日新聞の記事を転写し、皆様にお

知らせしたい。

山田靈林（前永平寺貫主兼曹洞宗管長、元駒沢大学総長）十五日

午前十時十分、老衰のため死去、九十歳。

駒沢大教授、学監などを経て、三十九年から四十三年まで同大総長、五十年二月から、五十一年四月まで永平寺貫主などを務めた。管長引退後は現在まで永平寺東堂だった。

禅学の權威として知られ、著書に「正法眼蔵現代語訳」「禅学読本」「禅と人生」などがある。

ここに於て、やっと本葬まで三ヶ月余も準備が要る事、高僧二十人が集まられる事等すべて納得出来た次第。

ここに謹んで皆様にご報告致しますと共に、心から御冥福をお祈り申し上げます。

作田耕三君のこと

昭3高 白 井 儀 三

彼がなくなって早くも半年になる。

彼と知りあったのは入学早々のこと。当時水泳部員が少くよほど淋しかったと見えて私のようなものまで出身校がびわ湖に面していると云う理由からか入部の勧誘をうけ、練習に参加、ここで君に知り合うことになった。私は競泳についてはズブの素人であるに反し

君は市岡商業時代から立派なスイマーで、確かバックと自由型の中距離が得意の種目だったと記憶している。

然し入部当時は学校にプールはなく、摩耶山麓にあった青谷農業用水池に木の板で二十五米間隔に仕切った枠の中がプール代用だった。ここへ君と卒業後間もなく死んだ浅野猛雄らと放課後一キロ程の道を練習に通ったものだ。池は谷間にある池の事とて水深は深く四月の水はとても冷たく十分間と練習を続けられるものではなかった。

ところがその年の六月頃になって当村上筒井にあった学校の西隣に隣接する数軒の資産家から非常時の防火貯水池になるからとの意味で出資を仰ぐこととなり二十五米プールが作られ、大いに練習の便宜を得たのも束の間、今度はその夏の異状濁水でプールに上水道を注入することはご法度になり、大阪府の旧制茨木中学（ちなみに当時の茨木中学はわが国水泳界のメッカともいふべき存在でその前年には高石、入谷両君のような世界的スイマーが輩出した）のプールで練習させてもらうやら、姫路師範（当時の）の宿舎に合宿させてもらって練習したり散々であった。然し私の水泳は遂にものにならなかつたが、君は市岡商業時代からの経験もあり、インターカレッジや対関西学院戦、当時の大阪商大（市立）戦にも可成りの得点をかせぎ部に貢献したものだ。

然し、彼との付合は姓の頭文字が同じSの關係でいつも席が近く浅野と三人終始行を共にしたものでお互に悪友でもあり、善友でも

あった。

彼の生家は当時の大阪郊外の中々の旧家で、嚴父は素人浄るりの番付でいつも横綱とか大関とかを張った人だけに、その血をうけた彼は自身やらなかったが音曲類のたしなみもあり万事都会人らしい教養を身につけており、彼の影響をうけることが多かった。

彼は平素何でもないことで鬼面人をおどろかすくせがあった。卒業して数年早くも会社（当時寿屋であったかサントリーであったか忘れたが）の築港の工場長並取締役になった。私はたまたま所用で彼に会い同期生の出世頭ではないかといったら彼は何を思ったか、ごう然と「平取締役であかん。社長にならな、あかん」と不敵なことを云い出し、人を煙くようなところがあった。

そのうちに彼は方々に転任し、私は京都にへばりついていた関係上お互のゆききは途絶え、そのうちに一年に年賀状と暑中見舞を交換するだけの仲となり、今日まで同窓会で数回顔を合せた位でその後彼の殆んど知らない。

その後の彼を語るに他に友があらう。

彼の計報を知ったのは丁度私が入院中で焼香にも行けなかった。

弔電は「弔電なんか相変らず水臭い男だなあ」と云はれそんな気がして遂にうたなかつた。生きておって何年か会はずにいて格別淋しいと思はなかつたがこの世にいないと思う今日、心にポツカリと穴があいてすき間風が通りぬけるのを感じる。これが旧友と云うものであらうか。 謹んでご冥福をいのる。

テツちゃん

昭13学 伊藤 英 二

三年越しの訴訟問題であれこれ神経を使っているせいか時間の経つのが誠に疾く感じる此頃である。テツちゃんこと高橋徹君が逝ってからもう三月余りになってしまった。

さて、テツちゃんと言えば直ぐ上筒井寮、水泳部、^{たぬき}を連想する。之れが三年間の学生々活に於ける彼とのつき合いの総てであると言えるだろう。うまく表現出来るかどうか、以下思い出すまゝに記してみよう。

私は昭和八年小樽高商を卒業し、一年余り会社勤めを経験してから神戸商大に入学した。上筒井寮に入寮したところ、且つての同級生の故片山四郎、千葉整（現大野）の両君が先輩として入寮していたから小樽出身の七回生入寮者は私を介して急速に親しくなつたようである。テツちゃんは二年後輩に当るので、片山さん、千葉さんと夫々さん付けで呼んでいたのは当然のことであるが、私に対しては何と呼んで良いかしばらくの間戸感っていたようである。当初は「さん」付けであったが次第に「氏」と呼び、生涯「君」と呼んだことは無かつた。テツちゃんの律儀な一面である。尤も私も高橋君とは呼ばず、始めから終りまでテツちゃんと呼び通した。彼はとつきが常に柔和であつたからテツちゃんと呼ぶのが一番相応しいと思つ

ていた。

私は、彼が小才を利かさず、堂々と表街道を生きて行くんだというその心構えを高く評価していたし、羨しく且つ好ましく観ていた。而も彼は決して、ええ格好しい、ではなかった。

テツちゃんも急速に親しくなったのは水泳部に入ってからである。千葉、片山両君の外に小池三郎君を加えた三人の同期生がはからずも水泳部に籍を置いていて、私をしきりに勧誘したが、二年間のブランクと素人に毛の生えた程度の実力だから今更水泳でもあるまいと断っていたものの、いつのまにか甘言に乗せられつつあった頃、テツちゃんの人柄を見込んで彼を部員にすべく私が口説き始めていた。彼は之まで運動部に在籍した経験はないし、而も全く金儲であったから答は当然ノーであった。併し将来マネージャーをやってもらうのには今から入部しなくては駄目だと色々口説いた結果、遂にOKをとったので、私も入部に踏み切った次第であった。

プールでの彼は、当時の部員が御存知の如く一番端のコースでオーバーフローに纏り乍ら減茶苦茶掻きから始めていた。選手の間練習の合間を縫い乍らである。部員は好感をもって眺め乍ら遂には誰もが臨時コーチに成る始末であった。彼の存在によって部は春風駘蕩、誠に和やかな楽しいムードであった。

そして三年間の水泳生活が終る頃には四百米以上をクロールで泳ぎ得たし、ポロポール扱いも出来る程に上達していたのである。その間、マネージャーとして故村上主将を助け、部の潤滑油となり、百

以上の役目を果たした。一度方針を決めたら完成までやり遂げる彼の頑固な且つ真摯な性格が窺はれる。卒業に当って、部の後輩から最も惜しまれ好かれたのはテツちゃんであった。申し分のないマネージャーであったと確信している。

さて、彼は元來酒及び酒席は好きな方であった。彼の余技とか趣味とかの類は殆んど記憶がない。おでん屋、たぬき、は寮生辛党のオアシスであった。彼とはしばしば誘い合って盃を重ねた。否、私が誘うことが多かったと言ふべきか。どういふものか彼は月末になっても飲み代位は持っていたので、つい室の戸を叩いてしまう訳である。テツちゃんも一杯やらんか、俺は金が無いけど、これで大体OKであったから。彼は酒も強い方だが飲む態度が良かった。滅多に姿勢を崩さず、ニコニコ泰然と飲んでいた。

対大阪商大戦、三商大戦のミーティングのあと、先輩の方々が勝敗の如何に拘らず我々の時は実は敗れることが多かったが二次会へ案内して下さった。そこではビールの呑み廻しが慣例であったから、酔い潰れる者も出てくるわけだが、そんな時は、酔っぱらいを介抱をしたり下宿先へ送り届けたり、面倒見が良かった。部を情熱的に愛し、分けへだてなく部員に対した彼の人の現れである。卒業の別れに当り、水泳部に入って良かった、と感謝を込めて私の手を握ってくれたあの時の厚い掌の感触が末だに鮮明で新しい。テツちゃんはもう此世には居ない。多分三途の川で泳いでいるかも知れない。私も何れは後を追うことになるが、その時は後輩とし

てあの世での水泳の手ほどきを親切な彼に教わることになるだろう。

合掌。 昭和五十五年二月末

鈴木啓介君を偲ぶ

昭16学 山 口 宗 樹

昭和五十四年十月二十四日、河童の友 鈴木啓介君が、東京相模大野の東芝東林間病院にて不帰の客となられました。

八月に森芳夫君と共にお見舞に出掛けた時は元気に学生時代の想い話をしていたのに、本当に残念です。

啓介君は昭和十三年四月入学、昭和十六年三月卒業で我々は戦争直前の河童仲間。同クラス、キャプテンだった部坂克夫君は海軍将校として太平洋に艦と運命を共にされましたが、無事帰国した他の仲間達は其后元気に夫々の途を経て来ました。特に鈴木啓介君は動人生活、所謂サラリーマンに飽き足らず戦後改めて困難な途を選び昭和三十一年見事公認会計士試験に合格、爾来豊橋駅前に鈴木会計士事務所を構え法定会計監査人として中部地区を中心に東西に活躍されてきました。

一方事業としては豊橋駅前の一等地に同時期に「ミスズ」と云うコーヒーショップを経営され、現代日本のコーヒーブームの先取りをされ、その先見の明には敬服の極みです。彼は長距離型の選手で

小樽高商時代より陸上競技でも長距離のランナーとして活躍されていて昭和四十五年頃だったかには北歐に五十才台ランナーとしてフルマラソン大会に日本の代表として出場されたとも聞いています。本職の水泳の方も自由型の四百米、八百米の泳者として三商大戦、関西インターカレッジ等に大活躍をされました。瘦身乍ら練習熱心で在学中の三年間レギュラー選手として水澄しの如くスイスイと泳ぎまくった事を良く覚えています。彼は又四十才台、五十才台になっても自分の健康管理に努め事業の傍ら早朝よりプールに飛込み週に三回は千五百米を一気に泳いでいたと聞きます。昭和五十四年に入っても四月頃迄は従来のペースで泳いで居た様ですが、五月に入つて泳ぐ事に疲れを憶え変調を感じ出したので診断を受け結局入院治療を要する事になり闘病生活に入られたのです。その尽衰弱が進み幽明境を異にされてしまいました。病源は癌との事ですが誠に残念です。

同期の河童仲間として御冥福を祈ると共に、奥様の芳子様始め、御遺族の皆様方の御健祥を祈ります。

* * * * *
野田曾一先輩について

野田曾一先輩は、去る昭和五十四年一月三十一日、北里大学病院にて肺癌の為、御逝去されました。生前の御活躍を偲ぶとともに、悼しんで御冥福をお祈り致します。

会員からのお便り

総会案内状返信より

○溝口 卓郎 (大13高)

高齢、段々出難くなりました。本年もご活躍を祈ります。

○川北 正喜 (大13高)

幸いにも健康です。趣味の生活で余生をすごしております。

○作田 耕三 (昭3高)

肺臓維症にて病氣休養中。

○植木 実就 (昭6高)

御案内有難うございました。残念乍ら当日欠席致しますが、貴部の一層の御活躍をお祈り致します。年に一、二回近くの海に入り、上筒井のプールで泳いだ時のことを思い浮べております。

○草野 嘉一 (昭7学)

本年一月二十六日(金)晴海ドー・スポーツクラブに於ける東

京凌泳会に出席。

昭和六年と十一年卒業の在京凌泳会のメンバーの会を年二回位やっております。

○山田 常雄 (昭7学)

一度顔を出さなければと思いつら中々思うに任せません。身体は至って健康ですが、そのため事件の数が多く、その処理に精一パイです。一度折を見てマツチの応援に出かけるつもりです。

○熊野 利夫 (昭8学)

過ぐる約一年半の間は、健康に要注意であったが漸く常態に帰った。なつかしいオールド・ボーイはつらつたる現役にも会いたいと思っているが、忙しうなかなか意にまかせない。そのうちぜひ参加したい。

○板野 亀八郎 (昭9学)

タバコをヤメ、ゴルフもヤメ、夕刻からの会合は極力不義理をすることにして経既に七年を過。夜はおそくも十時迄には就寝、我流の体操もして、後十年は働きつゞける積り。

○宮本 伯夫 (昭9学)

昨年川鉄コンテナター社社長を退き、相談役に、又今年四月ド

ラム缶の業界の理事長及び日本溶接容器の業界の会長を退き、夫相談役に就任してフリーの体になりました。東京の支店には健康上毎日出ては居りますが、フリーです。所謂晴球雨基曇雀まではいきませんが、気ままにゴルフをやっています。体は至極元気です。囲碁は上達しません。雀は負けが多いのでヨイ、カモと喜ばれています。古稀を迫えて感無量です。

○小池 三郎 (昭11学)

永らくご無沙汰いたしております。小生目下珍らしく健康を害して入院中。病名は胃潰瘍ということですが、大事に至らず近く退院できるものと思います。余りに健康を過信した結果無理をしたことを反省しています。ご案内ありがとうございます。

ご盛会を祈る。

○太田 正元 (昭13学)

東京、両国柳橋のたもとの会社に勤めています。五月会(東京の凌霄同窓会)がいつも柳橋稲垣で開かれますので、白山、小山先輩と御目に掛れるのが楽しみです。又、広島に出張しますと、熊野製缶の熊野さんに御目にかかるのも嬉しい極みです。

○大内 義仁 (昭14学)

四月に名古屋の山川君、今治の中村君を訪問、旧交を温めまし

た。何れも至極元気でお互いに六甲台時代をなつかしく思い出したことです。広島市内の室内五十mプールで緩泳していますが、泳いだ後は気分サッソウ身も心もほぐれます。最近の水泳、ゴルフ、パドミントンとチャンポンプレイして保健に努めています。総会にご出席の諸兄によりしくお伝え下さい。

○吉野 栄 (昭15学)

よんどころない所用の為、欠席します。毎日元気で孫の相手やら、花いじりです。孫娘も近いうちに、スイミングスクールが始まります。

○平岡 邦允 (昭16学)

小生、三井鉱山土地建物KKを退社致しましたので、通信は住所にお願ひします。

○前田 寿 (昭16学)

変わりばえない毎日を送っています。御出席の皆様宜しくお伝え下さい。

○尾上 信三 (昭17学)

お知らせするような環境もありません。今年は寒いので、練習に入るのも遅れましょう。皆さん体を大切にして下さい。

○上田 宇一 (昭18学)

元気にやっております。本年度の総会は欠席いたします。今後共、宜しくお願い申し上げます。

○富中 暁 (昭18学)

ヘルスクラブで週に五日は泳いでいます。一日、八〇〇m位が私には適当な様で一〇〇〇mをこすと、右肩の筋肉が疲れてややオーバーらしいです。皆様によろしく。

○古川富貴男 (昭18学)

北海道では、仲々泳ぐチャンスがありません。皆さまによろしく。

○三宅 林 (昭22学)

勤務先変更ありません。御出席の皆様は何卒よろしく。今年あたりは、プールサイドへ行ってみたいと思っています。

○岡 庄一郎 (昭23学)

あいにく先約あり、欠席させていただきます。
御出席の皆様によろしく。本年度のご活躍を期待します。

○大西 繁 (昭25学)

幹事の諸兄には、何時も御苦勞様です。小生も元気では居りませんが、公私共に多忙な日々を送って居ります。精々御活躍下さい。

○北野 誠良 (25学)

昨年十一月にタイ国より二年振りに帰国。現在は、東禱紡績KKに出向しております。

大阪支社 大阪市東区瓦町二丁目六四 トーメンビル内
本社 浜松市宮竹町五〇〇番

○石井 義章 (昭27学)

景気低迷乍ら、元気で頑張っております。総会には出席します。久し振りに、皆様と出会えるのを楽しみにしております。

○今井 政一 (昭24学)

何時も御連絡有難う御座居ます。相変わらず元気でやっております。御出席の皆様にも、呉々も宜しくお伝え下さい。

○天野 博行 (昭28B)

病気の為、自宅安静治療中です。

○小原 祥男 (昭29B)

石井先輩、いつも欠席で申訳ありません。宜しく申し上げます。

○岡沢 幹夫 (昭29 T)

本年四月、住所欄記入の所に転宅しました。

○田淵 五郎 (昭30 B)

儲らぬ仕事に追われて、ゴールデンウィークも余り休めずに居ります。御参集の皆様方にくれぐれも宜しく。

○堂本 直正 (昭30 T)

よんどころなき用事これあり、勝手ながら欠席お許し下さい。マンネリなるサラリーマン生活です。何かを求めたく模索中です。同期の佐藤一夫さん(新制三回法科、大和BK)が、ロサンゼルスへ赴任され、いささかさみしい春です。

○増井 幸蔵 (昭30 S)

前略、この四月より県立伊川谷高校へ転任しました。久し振りの転任で忙しい思いをしております。

○辻村 亮介 (昭30 E)

勤務先の社名を変更下さい。

旧 玉田毛織機

新 玉田 田機

○橋本 力 (昭30 T)

当日は卒業生の結婚式に招待されていますので、残念ながら総会には、欠席いたします。

○富岡 道雄 (昭31 B)

セガレから皆さんの活躍ぶりだけは聞いているのですが、いつもご無沙汰ばかりで申し訳ありません。

今回も都合がつかず、悪しからず欠席させていただきます。先輩、部員の皆さまによりしくお伝え下さい。

私の会社の社員用プールが、今年の六月に箕面に完成する予定ですので、私も今シーズンは少しがんばって泳いでみようと思っています。

部員の皆さんの健斗をお祈りしています。

○松田 司朗 (昭32 J)

先月三月十日より二十一日まで、新七回の栄川君とマニラ、クアランプール、シンガポールと彼の案内で楽しい旅行をしてみました。連日三十度をこす猛暑で、水泳しようとはパンツ持参したのですが、体調悪く泳げず残念でした。皆様によりしく。

○前田 弘義 (昭32 E)

いつも欠席で申し訳なく思っております。小生この度、下記に

転動になりましたのでよろしく願います。(名簿参照)

○岡見 晴児 (昭33 J)

残念乍ら、出席出来ません。

御出席の諸氏によりしくお伝え下さい。最近、テニスで中年のオトロエをなんとか喰い止めて(?)居ります。

○岡村 司 (昭34 J)

誠に申し訳ありませんが、社用のため出席できません。どうか出席の諸先輩、諸兄に宜しく。

今回、勤務先の住所が変更しましたので下記します。(名簿参照)

○小郷 謙 (昭35 B)

元気に働いております。一度お訪ねしたいと思っております。よろしく。

○宇賀 史郎 (昭35 E)

御無沙汰致して居ります。本年も頑張って練習に励んで下さい。大阪市内集金にまわられる時、前もって阻下さい。外出の機会が多いです。先輩各位によりしく御伝え下さい。

○上村 久治 (昭35 E)

最近、東京凌霜クラブの運営幹事を命ぜられ、しばしば出入りするようになりましたので、山口先輩にお目にかかる機会が多くなりました。

○柳本 正雄 (昭37 B)

ご無沙汰致しておりますが、皆様お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。最近合宿したりして泳ぐ機会がありませんが、子供達が水泳教室にかよっていますので、一年中水泳の話題はたえません。

皆様の今後のご活躍を御祈り致します。

○井上 隆史 (昭37 B)

仕事は、空調機の関係の営業で、景気の動向と天候に大きく左右され、苦勞の連続です。プールへ足を運ぶのも年に数回ですが、健康のために月一回位は泳ぎたいものです。

今年、三商大戦が東京で開催されるとか、応援には久し振りに行きたいと思っています。

皆様のご活躍を期待しています。

○萩原 武 (昭37 T)

今年、残念ながら凌雪スキークラブ例会が雪不足でおながれになり、とうとうスキーをはずさずじまいで過ぎてしまいました。

年々情性的になって行く様です。

凌泳会は、年々フレッシュマンによって新しい血が注ぎ込まれます。常に新鮮で、活発な活動が維持されます様に願っています。

○高岡 保宏 (昭37 P)

ごぶさたしております。当日、勤務校が育友会総会をします。

残念ですが、出席出来ません。

皆様によりしく、お伝え下さい。

○米田 啓祐 (昭37 P)

いつも案内等お送りいただきありがとうございます。

当地、但馬は日本海に面しながら水泳競技に関しては、低調そのものです。昔は兵庫県の中でもかなりよかったです。最近では室内プール水泳等には、まったく歯がたちません。それでも水泳連盟に関わる下部組織ができました。私も少しでもお役に立ちたいと思っています。皆様によりしく。

○平岡 昭朗 (昭38 P)

私の勤務しております県立相生高校も今年は三年目を迎え、来春は初の卒業生を送り出します。進学希望の生徒が多く、神大志望の生徒もかなりいます。そのうち卒業生がお世話になることもあろうかと思えます。よろしく願います。近年の現役諸君の

活躍嬉しく思います。今年も頑張ってください。

○鈴木 正弥 (昭39 E)

総会御出席の皆様によりしくお伝え下さい。盛会であること願っています。

最近では運動不足が激しく、もっと気楽に泳げるプールが手近にあればよいと思いますが、夜が遅いので週末のゴルフが唯一の運動になっています。夏になれば三人娘(小三、幼稚園、二才)に泳ぎを教えようと思っています。

○堤 荘祐 (昭39 P)

神戸に居ながら、六甲台プールを遠く感じます。毎年、水に親しむ回数が減っていく様です。昨年久し振りにプール(ユニトピア篠山)に入りましたが、これでも三十人余りの情緒障害児のプールの指導のために、楽しむところまで行かず、かえって神経を使い疲れました。

出席の諸先輩、先生方によりしくお伝え下さい。

○手嶋 忠之 (昭41 S)

御ぶさたしております。本年も益々御活躍下さい。当方、仕事と子育てに追いまわされて、だんだんプールに行く回数が減ってきました。

○小越 信昭 (昭43 T)

御無沙汰ばかりで申し訳ありません。磁気テープ(カセット等)の御用がありましたら申し付けて下さい。毎日忙しく、比較的元気に過しています。現役諸兄の健闘を祈ります。

○宮部 高博 (昭42 L)

海外出張のため、欠席させて頂きます。

○久保佑四郎 (昭42 E)

同期の由佐君よりお誘いがあり、二人で参上します。

○由佐 禎男 (昭42 T)

久保佑四郎君も出席します。

○阿部 洋三 (昭42 T)

ベストへの夢を追って相も変わらず東京YMCAのプールで泳いでいます。年令のせいかバタフライの方は、やや気力が低下して、泳ぐのが「しんどい」状態ですが、最近はクロールの方で、がんばっています。皆様によりしく。

○熊岡 禎二 (昭46 T)

毎回連絡いただいて有難うございます。いつも忙しくて出席で

きないでおりますが、諸先輩によりしくお伝えください。

○前田 信雄 (昭44 E)

大学より紹介頂いた会社を辞め、ただいま浪人中の身をもて余し気味で、平静を装うために親に悪いながらつつい無駄な日々を過ごしております。尚、時々会社の事が気になってか、会社の方にせつせと学歴証明書なんかを出す侮辱的な事を行っています。

○菊田 修三 (昭45 T)

現在ブラジルに長期出張中です。八月頃には戻る予定です。会社の同僚より。

○得丸 哲士 (昭46 A)

住所変更を連絡いたします。(名簿参照)

○藤井 元洋 (昭48 P)

元号法制化、有事立法、日の丸、君が代、管理強化、差別裁判等、確実に戦争への道を歩み始めたこの日本において、私は組合員として、又、一教師として平和と民主々義を守る戦いを日々行なっている。

貴方もできる範囲でこの戦いの一翼をになってほしい。
妻一人(真理)、子一人(信洋)

○家本 博一 (昭49 E)

今年度一杯名古屋に居住ということになりました。「名城」、清洲城のほとりのポロ屋です。

○正井 康子 (昭49 P)

欠席ばかりで申し分けなく思っています。六甲台プールの水はもう少しは暖かくなつたでしょうか。皆様体に気をつけて、練習にはげんで下さい。

○藤森 一男 (昭51 T)

五十四月四月一日付で、豊岡保健所公害課に転動しました。兵庫県内で最も暑く、最も寒い所だそうです。

○北川 敏行 (昭51 J)

四月一日で名古屋へ転動となりました。部員各位の今シーズンの活躍を期待致します。

○野田 叔子 (昭51 P)

住所、姓が変わりました。名簿書き替えの方、よろしく願っています。

○丸末 一之 (昭52 E)

毎日忙しい日々を送っております。今年は三商大戦、全国々公立戦が東京であるそうなので、夏を楽しみにしています。がんばって下さい。

○檀上 明夫 (昭52 J)

元気ですが課が変わり、新しい環境になれるのに苦しむ毎日です。皆様頑張っておられることと思います。五月十三日は私本人の結婚のため、欠席させていただきます。今シーズンの活躍を期待しております。みなさまによろしく！

○伊藤 良一 (昭52 T)

九月二十日まで横浜の戸塚工場で、工場実習を行っております。学生時代とは異なり、毎日工場へ定時に通わなければならぬのが苦痛ですが、今のところ何の問題もなく、なんとか通っています。夏休みに大学へ行ってみようかと思っていますので、その時はよろしく……。

○浦本 幸二 (昭52 J)

総務部総務課に勤務することになりました。

○平石 康 (昭53 P)

相変わらず、子供と遊んでいます。

○後藤 信人 (昭54B)

社内手違いの為御通知五月十五日に受け取りました。総会に出席できず残念です。一時ふくらみ出した腹も、最近テニス、水泳を始めたお蔭で元に戻りました。寮にはすばらしいテニスコートが二面半あり、平日にはアディダステニス教室が開かれております。土、日は我らが寮者の独占でもあり、かなり満喫できます。又夏の商社対抗戦に備え水曜はラサ、日曜は西宮市民体育館にて泳いでおります。本年度は必ずや一部復帰を果たしてくれると期待しています。

○酒井 正人 (昭53A)

公私共に忙しい毎日が続いています。もうすぐ結婚しますが、住所は(名簿参照)の通りです。新婚旅行は五月二十八日発西海岸、ハワイで、式はハワイである予定です。又、遊びに来て下さい。

○木下 修一 (昭53P)

近況をお知りになりたい方は、直接当方へお越しになるか、手紙でおたずね下さい。

○栗野 正子 (昭53S)

社会生活を始めてちょうど一年たちました。今は六甲台の緑

のプールで泳いでいたことが、まるで夢のようです。あのプールを思い出すと、古き？良き学生時代がなつかしく、こみあげてきます。まだ水はつめたいでしょうが、がんばって今年も、また良い成績を聞かせて下さい。

○有本 智恵 (昭54P)

学生時代とは比較にならないような充実感及び疲労感あふれる毎日を通しています。
みなさんも頑張ってください。

月見の宴案内状返信より



○溝口 卓郎 (大13高)

昨年度以上の好成績を喜んで居ます。新人群の活躍と思われるますが、蕾の芽を更に伸される様期待します。老生本年は、体調を崩し、就床の日が多く少々憂うつな感じですが。

○川北 正喜 (大13高)

健康に恵まれて趣味の生活を過しております。先日、我々の学生時代に泳いだ青谷の池を探してみました。消えて住宅になっておりました。

○中村 信三 (大13高)

どうやら無事に過ごしております。いつも御案内をいたゞいていますが、出席できなくて申し訳ありません。東京へ出たときまた小山会長と会います。

○木村 芳雄 (大15高)

一時肝臓をやられましたが、又元氣を取り戻して五十年来続いているゴルフに精を出すことが出来るようになりました。昨年は日本シニアゴルフと言う五十五才以上で一番權威のある会合で、三連勝(グラッドスラム)をして大変なことだと祝福されて有頂天になったところで、好事魔多しとか、肝臓を患った訳でした。

○尾上長三郎 (昭4高)

荆妻、九月三日逝去致しましたので、葬儀後の整理その他雑用に取り紛れていますので、折角の御案内に接しましたが欠席させて頂きます。凌泳会各位に宜しく。

○香山 孝一 (昭6高)

昨年リウマチにかかり、未だ治らず往生して居ります。各位の御健闘を祈る。出席の皆さんに宜しく。

○植木 実就 (昭6高)

毎年御案内いたゞき有難うございます。遠隔のため残念乍ら欠席致しますが、御盛會を御祈り致します。青谷の池や、上筒井のプールで泳いだ当時を思い懐かしき限りです。海の近くに住み乍ら、今年は遂に水に入れなかったのが残念です。

○小山賢之助 (昭7学)

関西インカレ、一部昇格おめでとう。

○熊野 利夫 (昭8学)

大して仕事をしてはいませんが、現役で居るとなかなか月見の宴にも出席し難い。(時に身体に小さな故障も起きる)。今年には海に行かなかつたので丁度一年間泳いでいない。(矢張り水に入ると身体が冷えるので残念だ)。

若い諸君、とにかく大いに思い切り泳いで下さい。

○宮本 伯夫 (昭9学)

古稀を迎え、閑職につき晴球雨甚曇雀(晴れた日はゴルフ、雨は囲碁、曇りは麻雀)と言うところです。ゴルフの腕前は落ちま

したが、前週のアイアンクラブ大会では、四一：四二でベスグロ
シニア優勝、バーディー2、十五日は敬老の日杯（袖ヶ浦クラ
ブ）に出場を楽しみにしています。囲碁は二段、電子碁盤を購入
して勉強しています。雀歴は五十年、時々卓を囲みます。若い時
代水泳をやったお蔭で元気です。

○伊藤 英二（昭13学）

八月下旬小樽の海で泳ぎました。四十数年振りですが、暖かく
感じました。相変らずやせていますが、平均的健康体です。お集
りの皆様によろしく。

○太田 正元（昭13学）

御無沙汰のみ申訳ありません。この間伊藤君ともゴルフに興じ、
水泳も年で出来なくなりました。小山先輩とは、時々御逢いして
います。皆様によろしく。

○大内 義仁（昭14学）

花の四月初旬に名古屋で山川君、今治で中村君を訪問して愉快
な話を楽しみました。両君とも何れも健在。小生は相変らずよく
遊び、よく学んで至極元気です。市立のファミリー・プールがこ
の夏、市の中心部にオープンしたので孫の坊や二人を連れて、よ
く泳ぎました。三つあるプールのうち一つが「流れるプール」で

スイスイと流れる水に身を任せて少年時代を思い出したことです。
心身共に若返る訳です。月見の宴に参加出来なくて残念ですが、
盛会を祈ります。

○山川 初雄（昭18学）

前略、九月十五日月見の宴は我々八回生が三年（旧制）の時始
めた一種の打上げ式だったのが、その後連綿として続けられてい
るのは憾かしい。尤も小生その年（昭和十三年）十二月一日付け
で応召入隊、又その年例の六甲山の山崩れ等、忘れられぬ年とな
ったことが懐かしく思い出される昨今です。

○満野 公介（昭14学）

月見の宴は丁度差支えて参加出来ません。次第に年はとりまし
たが、毎日元気で仕事に励んでいます。皆様の御健闘を祈ります。

○吉野 栄（昭15学）

残念乍ら欠席します。植物（主として洋蘭）、孫相手の毎日で
す。

○山口 宗樹（昭16学）

行事に余り参加出来ず申訳ありませんが、元気に忙しく過し
て居ります。本年度の御活躍御苦勞様でした。皆様に宜しく。

○前田 寿 (昭16学)

この夏は胆石のため二ヶ月ばかり入院し、手術をしました。皆様も健康には充分御留意下さい。

○平井 洋 (昭16学)

六月末商船三井の専務を辞任し、表記の会社へ移りました。昨年十月高血圧より眼底出血を起こし、その後も二度出血し、目下完全禁酒、もちろん泳いでも居りません。細く長く生きるしかありません。

○上田 宇一 (昭16学)

九月七日解散、総選挙になりましたので、最近は特に多忙になりましたので欠席いたしますが、参加者の皆さんによりしくご伝言を。於 市役所 議員室にて

○荻野 茂希 (昭18学)

今シーズンの皆さんの活躍は関西インカレの一部昇格が如実に物語っています。今後とも仲良く団結して活躍下さるよう切望します。

六十才に近くなり、休日も家で園芸を愉しむ年令になりました。身体だけは丈夫ですが、水に親しむ機会は、少なくなりました。

○稲垣 信夫 (昭20学)

ご健斗を多とします。毎年夏家族全員で二、三日水泳旅行をするのが恒例で、それ以外は殆んど水に入る事はなくなりました。今年には白浜に行き海とプールでたっぷり水に親しんで来ました。諸兄によりしく。

○山内 利男 (昭20学)

インド駐在二十五年を経て帰国、約四年近くなってやっと日本にも慣れた感じですが、金属が中心、機械、物資、何れもインド地区中心にやっています。

○山崎 健吉 (昭22学)

本年十月より日商岩井榭、停年退職となります。今后共宜しく。

○三宅 林 (昭22学)

神戸へ帰って一年半になります。九月十五日、社用のため出張しますので失礼します。皆様によりしく。二十五Mのプール、あと二と三Mでゴールとなりました。

○大西 繁 (昭25学)

前略、旅行中に本状が着いており、本日入手した所ですが何時も連絡を頂き乍ら欠席で申訳なく思っています。

○佐脇 鷹平 (昭25学)

四月から岡山で働いているのですが、出張が多くて月見の挨拶
状も見ただのが(当日)、おかれて申訳ない次第です。東京の鈴木
富夫にはときどき会います。

皆様お元気で。祈、ご活躍。お役に立つ事があれば何時でも出
来ることお引受けします。

○鈴木 富夫 (昭25学)

健康状態良好、仕事の方もやや上昇気分、来年は頑張る年にな
りそうです。

先輩の方々をはじめ皆様によろしく。

○石井 義章 (昭27学)

十五年間やって来たゴルフ練習場を九月九日で閉鎖しました。
後は打席やネットを利用して、バッティングセンターでもやってみ
ようかと思っています。

○今井 政一 (昭24専)

何日も乍ら諸兄の御健斗の成果御報告を受け、好成绩の程慶賀
に存じ上げて居ります。益々の御健斗をお祈り申し上げます。

○小原 祥男 (昭29 B)

卒業後二十五年になりました。今回も欠席しますが、皆様によ
ろしくお伝え願います。

○田淵 五郎 (昭30 B)

長期出張その他で出伏遅れて大変失礼しました。八月中旬上京
立寄って下さった現役諸君から本年の活躍の模様お聞きして心強
く思っています。

○堂本 直正 (昭30 T)

九月十五日、所用これあり。会社の親睦野球大会他、他出しま
すにつき欠席させて頂きました。当日の盛會と、皆々様の御健
闘を祈ります。

○辻村 亮介 (昭30 E)

出伏が遅れて申訳ありません。多忙の為、月見の宴は欠席させ
て頂きました。悪しからずご了承下さい。皆様方のご健斗を期待
しています。

○松田 司郎 (昭32 J)

御出席の皆様宜しく。

○岡田 正光 (昭32 J)

五十四年九月二十二日より表記住所にて仕事をする事になりました。
うた。(名簿参照)

○岡村 司 (昭34J)

誠に残念ですが当日は、社用のため行けそうにもありません。
御出席の諸兄に宜しく。今年の夏もプールで二回泳いだ切りで、
まともな夏を過ごした気になりません。皆様方の奮闘を祈ります。

○北村 敏 (昭34E)

今年は、六甲台の行事は全て出席するつもりでいましたが、十
五日は、先約有、解消不能につき欠席します。一年半禁煙をして
いましたが、ごく最近すいはじめました。しかしまたすぐ禁煙す
るつもりです。学生時代シーズンオフと共に何度も禁煙した経験
あり、禁煙はすぐできます。これは、シーズン中もすっている現
役諸君への皮肉であります。プロゴルフアームみたいなことは、や
められよ。

○村岡 英樹 (昭35B)

我々同期九名、三十五年に六甲台プールを巣立って、その後十
年は良く顔を合わせたか、最近はさっぱり。勉強の得意な奴は余
り居なかった所為か、お互いの想い出は尽きない。不惑を何時か
通り越したが一向に、確っかかりした様子もなく、今も幼弱を誇っ

ている。今年あたり、旧交をあたためようと目下計画中。

○上村 久治 (昭35E)

皆様によろしくお伝え下さい。小生は、九月十四日より十日間
ばかり中国へ行きます。

○柳本 正雄 (昭37B)

九月に入りめっきりしのぎ良くなって参りました。今年の夏は
格別の暑さだったので、子供達とプール通いの回を重ねました。
子供達の泳ぐ距離も毎年延びて楽しみです。

皆様の今後の御活躍をお祈り申し上げます。

○萩原 武 (昭37T)

今シーズンの御活躍心からお喜び申し上げます。久方ぶりの全
国々公立への団体出場、杉山主将以下皆様の御精進の賜です。三
商大戦は何かと大変でしたね。無事開催できて何よりでした。今
シーズンのエネルギーをぜひ、来シーズンに継いで下さい。

○高岡 保宏 (昭37P)

案内ありがとうございました。あいにく当日所用のため出席で
きません。先輩諸兄によろしくお伝え下さい。

関西インカレ、一部昇格おめでとう。

○米田 啓祐 (昭37P)

大学のプールで泳いでいたころは、二十歳前後のころであったのに、今年はまだ四十歳ということになりました。まだ、ほんのこの間のようにあり、あのころのことは、生々と私の胸の中にあるのに。早いものです。

○平岡 昭朗 (昭38P)

九月十五日は本校体育大会で出席できません。先輩諸兄、現役諸君によりしくお伝え下さい。本校は今年新設三年目で来年三月にはじめての卒業生を出します。神大志望者は十数名おります。よろしく。ただしプールがなく水泳部はありませんので悪しからず。近い将来水泳部員を送りたいと思っております。

○窪田 信雄 (昭38J)

住宅関係の人事(特に最近採用に関する事項)をやっています。月見の宴、所用にて出席できずすみません。諸先輩によりしくお伝え載きたく、よろしく願います。

○藤岡 治男 (昭38P)

前略、本年度の活躍お見事でした。来年度も本年に増して活躍されますよう。小生中学校の大会の最終戦が九月十五、十六日の両日にありますので、残念ながら月見の宴欠席させていただきます。

す。ご出席の諸氏によりしく。

○林 荘八郎 (昭38E)

現在ブラジル・サンパウロ市に在住。あと三年ほど帰国出来ないようです。

○武政 英幸 (昭39B)

七月より二度目の出向で本家の席が暖まることがありません。東京生活五年半、六甲台プールの水が恋しいこの頃です。

○鈴木 正弥 (昭39E)

関西インカレ一部昇格が、今年の部の力量を物語っていると思います。関西国公立第二位も近來にない好成绩と思えますが、ますます充実して全国々公立で五位以内に入ることを目標に頑張ってください。今年立派な名簿事項票付で感心しました。部が充実すると、こういった面でも配慮がゆきわたるのでしょうね。月見の宴、御出席のOBの皆様によりしく。

○手嶋 忠之 (昭41S)

本年もなかなかの御活躍御苦労様でした。当方、先日春日井市の水泳大会に出て三十才代の五十m自由型で二位になりましたがタイムがもう一つパツとしません。矢張り年なのかもしれませぬ。

○木下 雅浩 (昭41B)

社内水泳部の主将として活躍中。個人メドレーに注力。但し試合ではあいたコースを見つけてはオープンでせつせと泳いでいる。現役諸君のご活躍、頼もしく思っております。

○中畑 勝明 (昭41B)

当日は都合により欠席させて頂きます。御出席の皆様によろしく。最近運動不足解消のため今はやりのジョキングを始めました。またプールへも月一〜二回通って水泳にも励んでいます。

○小越 信昭 (昭43T)

前略、九月中、やば用でほとんど出社できず、返信が遅くなりましたことお許し下さい。近所(長岡京市内)にスイミングスクールができましたので、今後週に一度は水泳を楽しもうと、現在計画中です。先輩諸氏にもよろしくお伝え下さい。

○久保佑四郎 (昭42E)

卒業して太りすぎ、医者から糖尿の警告を受け、今年の春よりランニングに精を出しています。毎朝七キロ、三十分の運動で昔のスマートさに戻りました。ゴルフもぼちぼちやっています。九十月でうろつくばかり、上達しません。今年中に一度四二、一九五キロのフルマラソンに挑戦したいと意気込んでます。

○熊岡 禎二 (昭46T)

先日九月二日の三商大戦は、家族旅行に行っており出席できず失礼しました。

○前田 信雄 (昭44E)

病気のため入院中。

○井上与志男 (昭47J)

小生、本年六月にやっと結婚し、一家の主となって公私にわたりますます多忙になってまいりました。八月からは労組の執行部の役も仰せつかり、ますます細かい体にムチ打って居ります。戦績を見てとても頼もしく、思っています。今後大いに頑張ってください。

○井上 史朗 (昭45B)

十二月に転宅します。(名簿参照)

○以西 吉一 (昭48T)

子どもの出産予定日、間近にて出席できるかどうかわかりません。皆様に宜しく伝えて下さい。

○岡本 優 (昭49T)

現役部員の皆様、頑張ってください。

○植西 勝 (昭53P)

三年生の可愛い子供たちに囲まれて、忙しい毎日を送っています。近年の水泳部の活躍は、目ざましいものがあると思う。更に一層の精進を期待しています。

○家本 博一 (昭50E)

来年三月末まで名古屋に居りますが、大学へ新幹線で通っています。博士論文、予定要旨の作成で、毎日「珍しく」勉強しています。皆様によりしくお伝え下さい。

○大曲 芳郎 (昭50J)

勤務先が変わりましたので、訂正のほど宜しく願います。

○川本 典子 (昭51T)

サラリーマンと同じ時刻に出勤、水商売の人と同じ時刻に帰宅するという生活パターンが続き、健康に少し不安を感じています。しかし夏バテもせず元気です。

○丸末 一之 (昭52E)

夏バテもせず、元気にやっております。十五日の月見の宴は、

連休ですので都合がつけば出席させていただきます。来シーズンもがんばってください。

○檀上 明夫 (昭52J)

今シーズンも御活躍ですね。とても嬉しく思っています。今も週に二日は泳ぐようにしていますが、家庭サービスもしなきゃいけない立場になりましたので大変です。

諸先輩方、後輩諸君によりしく

○小林 正文 (昭52E)

九月十五日は、会社の関西地区スポーツ大会の為、出席できませんが、宜しくお伝え下さい。

○平石 康 (昭53P)

九月十六日の運動会をひかえ、只今、特訓中です。当日は準備で遅れるかも知れませんが、顔出しだけでもしたいと思います。戦績については、関西国公立での健闘、喜ばしいことです。

しかし近国体の成績をみて、来年が少々心配です。ルーキーの躍進を祈ります。

○後藤 信人 (昭54B)

忙しい。

◎岡田重義先輩（新十回）が、近々帰国なさり、当社当部に配属される予定。詳細は不明。

○酒井 正人（昭53 A）

最近少々夏バテです。六月に結婚してからは、充実した日々が続いています。

今回はつごうで行けませんが、部員、OBのみなさんによろしく。

○大林 良和（昭55 M）

本年は本場にすばらしい成績をあげられ、おめでとうございます。一部の人からは、来年は成績が下がるのではないかと心配の声がありますが、そういうことのないように、ガンバッテ下さい。

月見の宴には、残念ながら出席できませんが、皆様によりしくお伝え下さい。

水泳部のますますの御発展を、お祈りしています。

○栗野 正子（昭53 S）

最近運動不足解消のために、週に一度は泳ぐようにしていますが、少し泳いでは、せいせいしています。水泳部時代の練習を思い出して、よくもあんなに泳げたものだと、我ながら感心し

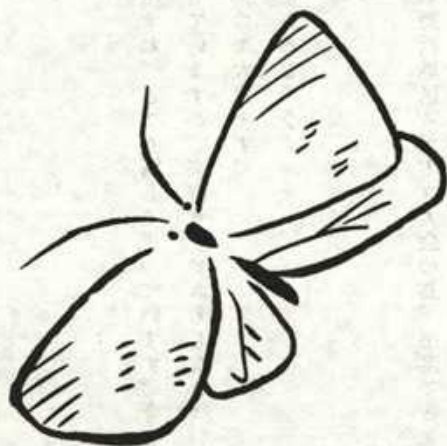
ます。

現役のみなさんも、いつかはそうなる時が来るのですから、今のうちに、心のこりのないようがんばって下さい。

○有本 智恵（昭54 P）

長かった夏休みも終り、夏の疲れを残したまま二学期がスタートし、はや二週間が過ぎようとしています。

朝七時に家を出て、夕方七時に帰り着くというきびしい生活の中で、いかに大学生活が楽であったかを、痛感する今日この頃です。



現役部員寄稿

リーダーとして一言 プラスα

主将 上田 剛 弘

松平康隆全日本バレーボール監督、西本幸雄近鉄バツファローズ監督といえ、日本でスポーツをする人なら、誰でも知っているでしょう。この両監督は僕の尊敬する人なのです。特にそのリーダーとしての技量、才覚の卓越さは、万人の認めるところである。あの弱体を跨った全日本バレーボールチーム、近鉄バツファローズを世界一、かたや、あわや日本一になりかけるまでに人間集団を育て上げた能力は、以前の僕にとって不思議な魔力のように思えました。そして喉から手が出る程欲しい思いはしたけれども、あれは所詮人間生来の才能、人格から生まれてきたものと半ばあきらめていました。しかし、「天才は九九多の努力と一多の才能から生まれる」という言葉のように、この不思議な魔力も実はその人のスポーツ・チームに対する深い愛情と熱意から生まれてくるのであるということに遅ればせながら気付いた次第です。そして先の両監督は、僕にはより一層厚みを増し、重いどっしりとした存在感が、ひしひしと感じられるようになったのです。つまり、僕なりの熱意をクラブに

そそぎこめば、全日本バレーボールチーム、近鉄のようにまではい
かなくとも、それに近づくことはできるのではないか。又、見かけ
だけの重さに内容をつめ込むこともできるのではないかと期待して
いるのですが……。

そこで、「今、自分は何をすべきか」という常にリーダーを悩ま
せる問題についての現時点の僕の気持ちをぶつけてみたい。結論か
ら先に言えば、「部員のヤル気」を起こさせることが、リーダーの
最たる仕事だと思う。その両監督もこれは多分、否、絶対になさっ
ただらう。それ程、リーダーの仕事として不可欠であると今の自分
に感じられるのはこれまで、それを怠った為もあるでしょうが……。
よくこんなことが言われます。「リーダーは、自分が先頭に立って
部員を引っぱってゆけ」と。しかし、これは一面の真理しかもって
いないのです。極端に言えば、これは一人孤独に走るランナーのよ
うなもので、応援もなく競争者もなく、最後にはあごを出してしま
うといってしまうのもよいのです。つまり、この裏にある真理、逆の
真理を見る必要があるのです。多勢の競争者にかこまれ、応援をう
け、走ることの重要性を知ることなのです。そしてこれは、部員の
ヤル気に通じるものがあるのです。

更に一步進んで言うならば、とかく自分の目標が変化するか失な
いがちな者には、しっかりとした目標を、不満を感じている者には
それを解消させる目標を、満足しきっている者にはより高い目標を、
そしてクラブ全体としてそれらを包括できるような目標を見つける

ことが、部員のヤル気をおこさせる十分条件だと思う。とにかく、人間は新しい刺激がなければマンネリズムに陥り、気力、能力等が低下するものである。だから新しい刺激を次々に与えることが、必要十分条件となるのは明らかである。その為には、リーダーは、常に新しい知識を吸収し、それを部員に与える媒介とならねばならないことになるが、部員兼選手兼リーダーの立場にある以上、これは並み大抵のことではないのではないかと。

しかし、一度流れ出した水はそう容易に止まるものではないことを考慮すべきである。つまり、ひとたびヤル気を起こした者は、自らの力で自らの路を切り開いてゆくのではないかということである。他力本願は人間の本能ではありえないと思う。つまり、先に書いた必要十分条件は満たさずとも、よいのではないかということが言いたいのである。だからして、残された仕事は調整である。個人の目標は十人十色で、クラブ全体の目標と次元を異にする場合もあるかもしれない。又、ゆきづまる場合もあるかもしれない。その軌道修正をおこなえばよいのである。リーダーとして川を作れば、そこに流れ込んだ水は、もはや人の手を借りずに流れてゆくだろう。そして川にある障害物を取り除けば、流れはおのずとスムーズになるだろう。上からの強制だけでは人間は満足に動いてはくれない。その人の自己実現の本能を刺激することが、一〇〇%又はそれ以上の力を発揮させる方法だと思ふのである。つまりこれが達成されれば、リーダーとして九九%の仕事をやったことになると確信する。

最後に、中程で言ったように部員兼選手兼リーダーとしての立場上、他力本願的な面がありますが、その点は情状酌量の余地は残されていると思うのですが……。

追記 読み返してみると何か論文を読んでいるような感じをうけましたが、これも、シーズンが近づき、はやる気持ちがさせたことと思ってもらえれば光栄——否、うれしいです。

シーズンオフについて

副将 芝 嶋 彦

後期の試験も終わり、そろそろ水泳シーズンが始まろうとしている。今はまだ、落ち葉のたくさん沈んだプールは、ひっそりとしているが、あと二ヶ月もすれば、波立ち、アワだつことだろう。

戦力的にみれば、今年のチームは、昨年までに比べて、ガタ落ちである。リレーメンバーの大半が抜けた事からもわかる様に、黄金時代が、やや落日に近づいているのかも知れない。しかし、それを黙って見ている手はない。新入部員の補強も不可欠だが、一番大切なのは、現役部員一人一人の自覚と努力だろう。試合に向けてのたゆまぬ練習と節制である。このオフには、基礎体力の増強と、不安材料（虫菌等）の解消に力点をおこう。スキー、スケート、大いにやろう。ただ、ケガには注意したい。また、温水プールでの個人練

習、あるいは、アルバイトが盛んなことは、たのもしい限りである。

オフの間の鍛練が、シーズン中の思いもよらない伸びに替がるのだと思う。シーズンに入って頑張る分、今から少しづつやれば差は大きいはずだ。タイムが伸びれば、泳ぐのが楽しくなり、楽しければよく泳ぎ、タイムが伸びるといった循環ができれば、しめたものである。楽しくもないのに泳ぐなんてのは、ばかっている。練習は苦しいには違いないけれど、同じ練習でも楽しい気分で行うではないか。泳ぎながら歌が頭の中に浮かんでくる。そんな時には、きつとタイムも伸びている。一年の頃、村田さん（J26）が、こんな話をしていた。「小椋佳の汽車って歌知ってるか。あの歌が、妙に好きでな、泳いでると、つい出てくるんや。すると不思議に頑張れをもんやで」。なる程、確かに頑張る気がする。以来その歌を歌いながら泳いでいる。テンポがいいのと、詩が、水泳にピッタリなのである。オフの話と、全くずれてしまったが、その詩でおわりとしたい。

この汽車は機関手がいらない

終着駅まで止まらない

終着駅はないかも知れない

だけど、必死に走るのさ

ガタガタ必死に走るこの汽車は

この俺の汽車は

こわれそうでも こわれぬ

必死に走り続ける。

メモリアル

水泳部キャンディーズ・らん

昨夜、主務の白子氏から原稿催促の電話がありました。「何でもええから書いてくれ。」と、例の調子で言われたのですがネタが浮かばず、締め切り間際の小説家の様な気分で原稿用紙に向かっております。締め切りは明日だそうで、あせって書きます。

「水泳は十代のスポーツである」という言葉を信じて中学、高校と泳ぎ続けてきた私は、大学ではヘルシーライフの一環として泳ぐつもりでした。まあ、クラブはラクなようなら入ろう、などと思っただけで、説明を聞きにオリエンテーションの指定教室へ行ったのです。ところが、新入生五人がいくら待っても誰も説明に来られず、しかたなしにプールへ登って行きました。するとそこはプール掃除の真最中で、何やらわからないうちに、忙しそうに働き回っておられた当時の主務の土井さんにせかされて、名前を書かされてホウキを持たされて掃除をして―気がつけば、喫茶店でピラフをおごってもらったのです。義理固い私は、あの時のピラフのために入部しようなものですよ。

それでも始めはよかったです。練習量は少なかつたし、主務の

慈幸さんは優しくかったし。」「その女の子、400もしんどかったら途中であがってもいいよ。」なんて、今から思えば計算づくめのそんなセリフに感動したりして。マリさんの励ましがうれしくて、四限の授業なんて見向きもせずとせとプールへ登って行ったものです。(もっとも、いつからか四限に限らず、全ての授業に見向きをしないようになりましたが;) そうですねえ、慈幸さんのバケの皮がはがれてきたのは六月の強化練習の頃からですか。「こらっノ手え抜くなっク」「ちよっとは速く泳ごうっちゃう気になれっク」なんて、入部当時から想像もつかなかったような言葉がポンポン返ってくるんですね。合宿なんて、全く地獄の苦しみでした。それでも練習がキツイせいとか、もう延びるまいと思っていたベストタイムが、大学一年で全種目塗り変わりました。

しかし、そこまででした。二十代に突入した二年では、弱点である、アームの弱さと怠慢さがドッノと前面へ出て、何やらクラブのお荷物になっているのではないかと、非常にすまなく思っています。

もう三年ですか……。体力も気力も使い果たしたカンジで、自分より怠慢な人間に会ったこともない。努力するのが一番苦手な私ですが、「水泳は二十代前半でもまだ何とか頑張れる」という言葉を勝手に作って、できる限り頑張って泳ごうと思っています。

部誌である『凌泳』に、こんな私的な文章を載せてもいいものか非常に疑問ですが、それはあせらせせた白子氏に責任があると御了承

下さい。

新入部員感想ノートより

(抜粋)

四月十八日(水) 山本 徹

僕は、今まで水泳をやったことがない。小学校のころ、体が大きいというだけで、「水泳の大会に出ろ」と言われて、ほんの二ヶ月やっただけだ。種目はブレスト。今でも平泳ぎのコツは忘れていないつもりで、フリーより、ブレストで泳ぐ方がだいぶ速い。水泳部に入るきっかけとなったのは、そのせいもあるが、まず第一には、自分一人で練習ができるということだ。野球やバスケットなど団体競技は、チームプレーの感覚をつかまなくてはならないし、チームの練習にも合わさなければならぬので、僕みたいな初心者には、ついていけないだろうと思ったからだ。いざ水泳部に入ってみて、ついていけるという自信がついた。(まだシーズンには入っていないので断言はできないが)。練習には、なるべく出ようと思うが、水曜と木曜は、選択の関係でほとんど出られないと思う。まだわからないことばかりなのでいろいろ教えて下さい。よろしく。

四月二十三日(月) 酒井 潤

どうして、水泳部に入部したかという、水泳以外に、人並み
できるスポーツがないためだ。投げてもダメ、走ってもダメ、跳ぶ
ことなどは考えられない。だから、ほとんど初心者と変わらない。
たいして、水泳部には物理的な貢献はできないけれども、内面的に
は、できるだけのことをしようと思う。今年の目標は、高校時代の
ベスト記録まで、もどる事。そして、部の内で、友達をつくること。
授業の都合などで、週三日しか、出られないけれど、がんばりたい。

五月一日(火) 田中 俊哉

今まで何度かプールそうじをしてきたが、今度のようなのは初め
でだ。遅れて来た人は知らないと思うが、プールの底一面に落ち葉
が積もっていた。加えて異臭のすごさ。大きいみみず、たまらん。
連休あけから、泳げると思うと、うれしさと寒さが同時にこみあげ
てくるが、やはり寒さの方が強いだろう。しかし、今年の目標は、
ベスト記録を一秒、いや〇、一秒でも伸ばす事だから、しっかりが
んばらんと。

では、心理学の講義中ですので、このへんで……。

五月十二日(土) 太田 雅彦

中学校、高校と、僕は阿呆みたいに水泳をやっていた。あのせま
い二五mプールを何度も何度も、ウルトラ・ワンパターンで行った
り来たり。四月、五月のプールの水のあの冷たさ、頭ガンガン、

耳キンキン、足ツリツリ。真夏の猛練習(という程でもな
かったが)では、頭がボーとなり、せきがとまらなくなる。毎日毎
日、クタクタになって練習をしてきた。しかも、その練習を生かせ
るのは、試合での、たった一分と六、七分の間だけ。ほんの瞬間で
おわりである。阿呆みたいもいとこや。

だから大学では水泳だけは絶対にやりたくないと思っていた。入
学式の時も勧誘のビラをくばりに来なかったし、入部説明会もやっ
てなかったし、ポスターもあまり見かけない。いろいろな先輩に聞
いても「水泳部なんてあんの? あんまりパツとせいへんな。」とか
「神大の体育会はあかんで。」とか、悪評ばかり耳に入る。プールは、
六甲台のうっそうとしたうす暗い林の中にうずもれているので、見
るからに、陰険な感じがする。見るからにしんどそう。そのような
水泳部に、どうして又入ってしまったかという、まず、何事も一
つの事をずーと続けるという事は男として、人生のページとして、
かっこいい事だと思ったし、全国大会というものに一度出場してみ
たかった。それに、冬のトレーニングが割と楽そう、ソフトボー
ルなんかやって遊んでいる上に、プールのそばには大浴場も備えつ
けられてあるようだ。てなこと、かなり期待して水泳部に入った
わけなのに、ソフトボールは、一回しかやらなかったし、全国大会
出場もあやうそう。風呂は熱すぎたり、ぬるすぎたり。プールの水
は、きたないし深い。けど、人数が多いので、割と活気があるし、
いい先輩もたくさんおられるし(しかし、あまりおごってくれませ

んが……。四限目は、全部空いているので、出席率十割を続けて、「打倒ノ 杉山先輩」をめざして、根性あるのみやんけノ

五月十六日（水） 杉野 誓

泳ぎ始めて十日程たったが、日ごとに、練習がきつくなってくるようである。僕は、先日から、右ヒザが痛く、今日は練習を休んだ。昨日、病院へ行くと、スジを痛めていると言われた。みんなと共に練習できないのが、非常に残念である。先輩の話によると、一週間に千山の割合で練習量が増えていくそうであるから、一日休むと、後でオソロシイ。けれども、某氏のように「ヘルニア」などになると、もっとオソロシイので、しばらくは、練習を休む事にします。そのかわり(?) 今日、練習のあと、山本氏の下宿において、一回生の大コンパであった。六畳の部屋に十人が集まり、ムチャクチャのりまくっていた。……と言っても、本当にのっていたのは、○氏(特に名前は伏せますが)だけかも知れない。他の九人はのせられていた。彼は、ホモ体験談から、ポルノ映画評論へと話のネタは限りなく続き、他の九人は、彼の本来の姿に驚くばかりであった。今夜、僕は酒のコワサを始めて知ったような気がします。また明日から、練習であるが、僕は来週から、泳ぐつもりです。とにかく、がんばろう。

五月三十日（水） 金 一波

僕は、どうしようもない水泳バカである。水泳というスポーツにとりつかれ、青春のほとんどもを食いつぶされていっていると書いても過言ではない。水泳が好きで、好きでしかたがない。

僕の将来の目標は、医師になる事だ。そのため、今はすべてを忘れ、勉強しなくてははいけない。けれども、そんな状態の中でも、どうしても水泳だけはやめる事はできなかった。高校時代のライバルたちが、大学に行き、次々とベストを出し、自分を抜いて行くさみしさ。先輩が、先に大学でデビューするという屈辱感。もう我慢ができなかった。どうしても、水泳をしたかった。そのためにだけ、勉強をしたと言っても、言い過ぎではなかった。だけど、医学部の門は遠かった。しかし、もう一年待てなかった。だから、こうして水泳部だけに所属するような状態になってしまった。

正直に言って、これは受験勉強にとっては大きなマイナスかもしれない。中には、すでに、敗北していると言うかも知れない。だけど、僕は思う。負けおしみかも知れないが、人生には大きなプラスになると信じている。水泳はすばらしい。苦しいからすばらしい。しんどいから楽しい。どんな形であれ、やるからには、神大水泳部に、命をかけるつもりで、がんばりたい。

最後に、たとえ負けると最初からわかっていても、あえて、全力で勝負するような男でありたい。

六月三十日（土） 長谷川 泰造

今日、やっと合宿が終わり、その安堵感から、この感想ノートを書く気になった。

泳ぎ初めて、そろそろ二ヶ月になろうとするが、私自身まだ本調子ではない。しかし少しずつ、上向いてきている事は、大変よい傾向だと思う。七月中には、何とか高一の記録にもどし、八月には、ベストを出せたらいいんだがと思っている。

話は変わるが、私は昔から、二つの事を同時にこなす事が、非常に不得意であり、いや不得意というより、一つの事に、すぐ盲目的に突っ走る傾向があった。そのために、高校時代あれだけ熱中した水泳をやめなければならなくなった。というより、そういう自分が情けなくて、何もかもいやになったといった方が正確な言い方かもしれない。

私は、大学への合格が決まったとき、高校時代の中途半端なただらした生活を反省し、大学生活は、やるべき事をこなし、その上に自分の楽しみを見つけていこうと、固く決心していたのだが、現在の生活を直視してみると、最初の目標が、かなり壊れかけているのが、現実である。これから夏休みに入っていくが、何とかして、納得のいく大学生活を送りたいと思う。気がついてみると、何やら告白めいた文章になってしまい、他の一回生には、失礼ではありませんが、文才の全くない私には、このような事しか書けないのであります。

最後に、私の大学生活（水泳以外）での、目標の具体的な一例と

して、女性とうまく話ができるようになりたいと思う。合コンでの不覚は、私自身、非常に苦い経験であったが、また、いい経験であったように思う。太田、杉野には、大変迷惑をかけてすまないと思っている。これから、合コンがあれば、宝塚線はすべて、私が受けもちます。

七月十日（火） 小井戸 路代

なぜ水泳部に入ったかという点、水泳が好きだからです。中学も高校も水泳部に入っていたので、大学では、もう水泳をやめて何か新しいことをしようと思っていました。何かと言っても、なかなか一つに決心がつかず、どのクラブに入ろうかかなり迷いました。

でも、結局は水泳に未練が残っていて、他のクラブに入る事はできませんでした。ところが、他の音楽科の人たちが次々と合唱団に入り、私は体育会水泳部に入る事に、大きな抵抗がありました。でも、寺尾さんという音楽科の偉大な先輩が、いらっしやっただけで、私は水泳部に入る決心ができました。

昭和54年度戦績報告

「京阪神三大学戦」 6月10日 於 京都大学プール(50m)

○1000m自由型

金 一 波	1-02-5	4位
中 尾 稔	1-06-4	6位
土 井 和 幸	1-14-1	

○4000m自由型

上 田 剛 弘	5-32-5	1位
酒 井 康 司	5-41-5	4位
田 中 俊 哉	5-50-0	6位

○8000m自由型

酒 井 潤	12-36-4	
亀 井 尚 之	12-52-9	
白 子 靖 則	14-07-6	

○2000m平泳

富 岡 洋 三	2-58-7	3位
後 藤 芳 光	3-27-8	

○2000mバタフライ

田 中 俊 哉	3-33-0	4位
高 城 俊 介	4-12-5	

○2000m背泳

杉 山 和 弘	2-48-2	1位
太 田 雅 彦	2-53-5	2位
館 谷 彰 司	3-17-5	6位

○2000m個人メドレー

慈 幸 弘 樹	2-40-1	1位
芝 暢 彦	2-57-1	4位
土 井 祐 二	3-06-6	

○4000m個人メドレー

芝 暢 彦	6-29-1	1位
太 田 雅 彦	6-29-2	2位

○4000mメドレーリレー

太田・秋田・富岡・金	5-03-7	3位
------------	--------	----

○8000mリレー

亀井・酒井康・上田・金	10-12-8	3位
-------------	---------	----

総 合

1位	京 都 大 学	70点
2位	大 阪 大 学	69点
3位	神 戸 大 学	69点

800mリレーの着順により神戸大学は3位。

本大会は歴史も古く、関西の伝統6大学によるシーズン開幕の第1戦であるが、3大学は泳ぎ込み不足で、他校の戦力探りが目的となってしまう。その為、ベストメンバーでのエントリーはされず、白熱したレースはあまりなく、得点も各校に分散した。記録的にも見るべきものはなかった。しかし、2軍とはいえ同志社大学の泳ぎっぷりは見ごたえがあること、3大学の中で神大が頭一つリードしているのではと思われた点だけでも成果といえよう。(上田記)

○第1試合

神戸大	Q	京大
1	I	0
0	II	1
1	III	2
1	IV	1
3	計	4

○内の数字は
得点を示す。

(メンバー)

1. 亀井尚之
2. 山本隆①
3. 上田剛弘
4. 慈幸弘樹①
5. 中尾稔①
6. 土井祐二
7. 館谷彰司
8. 杉山和弘
9. 芝暢彦
10. 富岡洋三
11. 土井和幸

○第2試合

神戸大	Q	大市大
1	I	0
3	II	1
4	III	2
1	IV	1
9	計	4

(メンバー)

1. 亀井尚之
2. 山本隆④
3. 上田剛弘
4. 慈幸弘樹
5. 中尾稔④
6. 土井祐二
7. 館谷彰司
8. 杉山和弘
9. 芝暢彦①
10. 富岡洋三
11. 土井和幸

— 総 合 —

1位	立命館大学	2勝	2位	京都大学	1勝1敗
3位	神戸大学	1勝1敗	4位	大阪市立大学	2敗

今年は競泳中心に練習した為、水球の練習が充分でなかった為、苦戦が予想されたが、持ち前の泳力と個人技で何とかという甘い考えがあったことも事実であった。それにしても悪い予感というのはよく当るもので、1回戦の対京大戦で練習不足が足を引っぱった。先ず、シュート数が京大の3倍もありながら負けたこと。単調な攻撃パターンしかないこと。ボックスの不注意による失点のあったことなどで頭と手足、いや体じゅうの細胞がすべて勝手に動いているようだったといえ、極端すぎるだろうか。

対市大戦は、先の甘い予想の方が当たり、歴然とした泳力差、個人技で勝つことができた。しかし、これからまだ神京戦、市大戦、三商大戦が控えているというのに、先が思いやられます。はい。(上田記)

「兵庫県学生選手権」 7月1日 於 神戸商船大学プール(25m)

(男子)

○100m自由形

金 一 波 1-00-5 3位

中 尾 稔 1-06-0

○200m自由形

金 一 波 2-24-8 4位

中 尾 稔 2-28-6 5位

○400m自由形

上 田 剛 弘 5-04-5 4位

酒 井 康 司 5-12-3 5位

○800m自由形

上 田 剛 弘 11-10-6 4位

酒 井 潤 11-37-7 6位

○100m平泳

慈 幸 弘 樹 1-15-7 2位

富 岡 洋 三 1-17-5 4位

○200m平泳

富 岡 洋 三 2-53-8 3位

森 鼻 隆 夫 3-15-1

○100mバタフライ

山 本 隆 1-07-4 2位

田 中 俊 哉 1-19-5

○200mバタフライ

山 本 隆 2-41-0 1位

芝 嶋 彦 3-09-1

○100m背泳

杉 山 和 弘 1-09-5 2位

太 田 雅 彦 1-15-2 4位

○200m背泳

杉 山 和 弘 2-34-1 2位

(神大新)

太 田 雅 彦 2-46-4 5位

○200m個人メドレー

慈 幸 弘 樹 2-33-9 2位

芝 嶋 彦 2-47-5

○400mメドレーリレー

杉山・富岡・山本・金

(大会新、神大新) 4-35-2 2位

○800mリレー

金・上田・杉山・山本

9-17-2 3位

総 合

1位 甲 南 大 学 77点

2位 神 戸 大 学 72点

3位 関西学院大学 57点

4位 神 戸 商 科 大 学 53点

5位 神 戸 商 船 大 学 25点

「兵庫県学生選手権」 7月1日 於 神戸商船大学プール(25m)

(女子)

○100m自由形

寺尾紀子 1-13-5 2位

小井戸路代 1-26-9 4位

○200m自由形

寺尾紀子 2-41-5 2位

○400m自由形

小井戸路代 6-52-7 3位

○100m平泳

森田恵 1-38-9 4位

○200m平泳

森田恵 3-34-8 4位

国本温代 3-51-9 5位

○100mバタフライ

国本温代 2-04-8 3位

○200mバタフライ

辻陽子 4-00-1 3位

○100m背泳

石本日和子 1-33-6 3位

○200m背泳

石本日和子 3-25-0 3位

○200m個人メドレー

辻陽子 3-26-9 3位

○400mメドレーリレー

石本・森田・辻・寺尾
6-10-6 2位

○400mリレー

寺尾・石本・小井戸・辻
5-33-1 2位

総合

1位	武庫川女子大学	131点
2位	神戸大学	55点
3位	甲南大学	9点

前年惜しくも2点差で、甲南大学に苦杯を喫したので、今年こそは「打倒甲南」を目指そうと思っていたのですが、日程の都合上止むなく合宿明けの日と重なり、調整も何もなく試合に望まねばならなかった。内容は、男子では神大が1位をほとんど独占した昨年と違って200バタの山本を除いて甲南、神商が1位を占めた。しかし、昨年は中位に多数の選手がくい込み、チーム全体としては盛り上がった。中でも特筆すべきは2位ではあったが、400混継(杉山・富岡・山本・金)で神大新が生まれた事であろう。結果は再び甲南に敗れ涙をのんだが、合宿明けの試合としては上出来であろう。女子の部では例年の如く武庫川女子大の圧倒的な強さに目を見張るばかりだった。しかし1位、2位を総て独占されるのではと思われた中、堂々寺尾が100・200自で2位に喰下がったのは孤軍奮闘の活躍であった。(上田記)

「関西国公立戦」 7月14・15日

於 大阪府立大学プール(50m)

〔男子〕

○1000m自由形

金 一 波	1-00-9	5位
中 尾 稔	1-06-1	
土 井 和 幸	1-12-3	

○2000m自由形

田 中 俊 哉	2-29-7	
中 尾 稔	2-29-7	

○4000m自由形

上 田 剛 弘	5-10-4	5位
酒 井 康 司	5-18-6	
白 子 靖 則	6-24-6	

○15000m自由形

上 田 剛 弘	21-09-7	4位
酒 井 潤	22-40-8	
亀 井 尚 之	24-29-0	

○1000m平泳

富 岡 洋 三	1-19-8	
森 鼻 隆 夫	1-31-3	

○2000m平泳

富 岡 洋 三	2-56-6	
後 藤 芳 光	3-21-0	
長谷川 泰 造	3-18-5	

○1000mバタフライ

田 中 俊 哉	1-22-1	
高 城 俊 介	1-29-3	
長谷川 泰 造	1-43-1	

○2000mバタフライ

山 本 隆	2-41-7	4位
高 城 俊 介	3-41-9	

○1000m背泳

杉 山 和 弘	1-11-8	1位
太 田 雅 彦	1-15-6	3位
館 谷 彰 司	1-23-5	

○2000m背泳

杉 山 和 弘	2-37-3	1位
太 田 雅 彦	2-44-8	2位
館 谷 彰 司	3-07-7	

○2000m個人メドレー

慈 幸 弘 樹	2-36-8	1位
芝 嶋 彦	2-40-8	4位
土 井 祐 二	3-06-8	

○4000m個人メドレー

芝 嶋 彦	6-03-8	4位
土 井 和 幸	7-13-0	

○4000mメドレーリレー

杉山・富岡・山本・金	4-41-4	2位
------------	--------	----

○4000mリレー

田中・金・杉山・山本	(神大新)	4-06-2	1位
------------	-------	--------	----

○8000mリレー

上田・金・杉山・山本	9-28-4	3位
------------	--------	----

— 總 合 —

1位 大阪府立大学 66.5点	4位 神戸商科大学 47点
2位 神戸大学 62点	5位 大阪大学 46点
3位 京都大学 58点	6位 滋賀大学 16.5点

「関西国公立戦」 7月14・15日

於 大阪府立大学プール(50m)

(女子)

○100m自由形		○200m背泳	
小井戸 路代 1-26-3		清水 万里 3-21-2 2位	
○200m自由形		石本 日和子 3-23-2 3位	
寺尾 紀子 2-44-6 2位		○200m個人メドレー	
○400m自由形		小井戸 路代 3-35-1 4位	
寺尾 紀子 5-56-9 2位		○400m個人メドレー	
○100m平泳		辻 陽子 7-09-3 1位	
森田 恵 1-40-7 4位		○400mメドレーリレー	
○200m平泳		石本・森田・辻・寺尾	
森田 恵 3-39-6 3位		6-05-4 3位	
○100mバタフライ		○200mリレー	
辻 陽子 1-35-3 5位		清水・小井戸・石本・寺尾	
○100m背泳		2-16-8 3位	
石本 日和子 1-30-8 2位		○400mリレー	
清水 万里 1-33-1 5位		清水・小井戸・石本・寺尾	
		5-23-2 4位	

— 總 合 —

1位 奈良教育大学 75点	4位 大阪教育大学 39点
2位 神戸大学 56点	5位 京都教育大学 33点
3位 大阪大学 42点	6位 京都大学 24点

ドキュメント：関西国公立戦

2週間の強化練習と、5日間の合宿に耐えた神大は、初日、1位の大府大に9点の差をつけられたものの、2位と健闘していた。初日を振り返ってみよう。神大は、朝からさえなかつた。金一波が、食中毒で苦しみ、とても試合に出られる状態ではなかつた。それでなくても慈幸が関西国公立を前にして、腰痛で倒れ、医者に泳ぐ事を止められており、動揺は大きかつた。しかし、神大は杉山主将を軸として、関西国公立3位入賞を目指してレースにのぞんだ。まず、最初の決勝1500自で、病気で1年を棒に振った上田が、去年のうさを晴すべく4位に入ったが、次の400個メでもや神大は大きく動揺した。案々と1位に入ったはずの山本がバタフライで泳法違反(足が左右不対称)となり、失格となったからだ。同じレースを芝が自己のベストを大幅に縮める。6-03-8の好タイムで4位にくい込んだものの、7点の失点は痛かつた。その後の200バタに出場した山本は、失格にならないために、腰はほとんど使わず、手だけで泳いで4位。本当なら1位確実であるのにと審判員をにらみつけながら、神大は沈みかけながらも、泳ぎ続ける山本にギャアギャアと声援したのだった。重なるアクシデントに少し沈んでいた神大は、山本の失格のあと、なぜか燃えた。200背を杉山主将、太田のコンビで1・2位独占。400Rでも食中毒で苦しんだ金が出場し、大会記録には0.4秒及ばなかつたものの、大府大に2秒の差をつけ、4-06-2で1位となり、総合で神大は4位から、京大、阪大を抜き、2位となったのだった。

そして今日、大会最終日である。まず最初の400MRは、良知氏の率いる神商大に敗れたものの、2位に入り、幸先のいいスタートを切った。次の200個メでは、山本失格の穴をうめるために、慈幸が腰の痛みをおして出場、予選をなんとか9位で通過し、決勝ではとても腰が痛いとは思えないほどの力泳で1位、又芝も、4位に入り、神大は10点を獲得し、初めて総合で1位になったのだった。しかし、大府大も粘り、神大は400自で上田が2点、100自で金が2点を取ったものの、再び総合で逆転され、神大は2位に落ちた。しかし、200背で杉山主将、太田のコンビで11点をとり、またもや神大は総合1位となり、20年振りの優勝かと思われたが、それもつかの間、次の100平で大府大は5.5点をとり、大府大59.5点、神大58点と、1.5点の差で神大はまたもや2位に落ちた。残るは800Rのみである。ここで、初めて神大は1位争いをしているのに気付いたのであった。いままで候点を計算する暇もなく、2位か3位争いをしているものと思っていたので、素直に喜んだ。800Rで優勝すれば、20年振りの総合優勝である。それに、前日の400Rでは優勝している。しかし、3年連続12回目の優勝を狙う大府大の壁は厚く、800Rは大府大1位、神大3位に終わり、4.5点の差で、神大は2位に

甘んじたのであった。

女子の部も、最初の決勝400個メで辻がいつもの手抜き泳ぎとは全く違った力泳で優勝。また寺尾も、400自で大会新で2位となるなどして、総合2位となった。

試合後、あの失格さえなかったら優勝だったのという無念さが残ったが、男女とも2位となり、全国々公立に揃って出場する事になり、3位以内を目標にしていた神大は充実感を覚えていた。その証拠に4回生は、腰痛の愁幸を除いてすべて、閉会式のあと、プールに投げ込まれたのだった。

神大部員の心は全国々公立の開かれる筑波大学へ、体はビールへと向かったのだった。

(高城記)

「第60回対市大戦」 7月22日 於 神戸大学プール(25m)

(競泳の部)

○100m自由形

金 一 波	1-05-6	1位
土 井 和 幸	1-11-1	3位
杉 野 誓	1-30-2	5位

○400m自由形

酒 井 康 司	5-14-2	1位
寺 尾 紀 子	5-47-0	2位
白 子 靖 則	6-13-0	5位

○800m自由形

上 田 剛 弘	11-11-4	1位
酒 井 潤	11-51-7	2位
亀 井 尚 之	12-07-6	3位

○200m平泳

富 岡 洋 三	2-53-4	1位
田 伏 正 佳	3-18-4	5位
山 本 徹	3-18-8	6位

○200mバタフライ

辻 陽 子	3-33-4	3位
高 城 俊 介	3-44-7	4位

○200m背泳

杉 山 和 弘	2-40-1	1位
太 田 雅 彦	2-51-7	2位
館 谷 彰 司	3-05-6	3位

○200m個人メドレー

芝 嶋 彦	2-40-4	1位
後 藤 芳 光	3-24-0	5位
長谷川 泰 造	3-29-1	6位

○400mメドレーリレー

太田・富岡・田中・金	4-59-6	1位
------------	--------	----

○800mリレー

田中・酒井康・金・酒井潤	10-00-6	1位
--------------	---------	----

総 合

1位	神戸大学	100点
2位	大阪市立大学	77点

〔水球の部〕

スコア

神大	Q	市大
3	I	1
1	II	0
3	III	1
3	IV	2
10	計	4

○内の数字は
得点を表わす。

メンバー

1. 亀井尚之
2. 上田剛弘
3. 芝暢彦
4. 酒井康司
5. 富岡洋三④
6. 館谷彰司①
7. 中尾稔④
8. 太田雅彦
9. 金一波
10. 土井和幸
11. 杉山和弘

60回を迎えた市大戦は、7月22日、緑水の我六甲台プールに市大の面々を迎えて開催されました。60回という大きな節目を迎えたものの、大会そのものはいつもの和やかなムードのうちに進行し、正直な所、部員の間にも、とりたてていう程の感慨もないようでした。しかし、プールサイドに山田副会長や、市大の岩橋会長、など両校のOBの方々が多勢御来援下さいました事、この紙面をお借りし、改めて御礼申し上げます。

さて、大会を振り返ってみますと、まず最初の400混戦では、Aチームはもちろん、オープン参加のBチームでさえ、市大に1分の大差をつけて圧勝。続く800自、200平、200個メ、100自、400自、といずれも1位を独占。ああこれで、今年も完全優勝かと思いきや、次の200

バタでは、市大のホープ宮内にトップをとられてしまいました。(もっともこれは、予想されていた事ですが……)。

しかし、次の200背では1・2・3位を独占、最後の800リレーでは、1回生で組んだAチーム、オープン参加のB、Cチームも市大に圧勝。結局、完全優勝は逸したものの、100対77で競泳の部は優勝できました。

休憩をはさんで、午後からは水球でした。こちらの方は競泳に比べ、やや不安がありましたが、中尾御大や富岡の活躍で、10対4で市大を下し、無事今年も総合優勝とあいなりました。

その後、六甲台の生協で、60回記念パーティーが開かれ、両校OBを交えて、互いの親睦を深めあうと共に、今後の健闘を誓い合い、60回大会も、目出度く終了しました。

(白子記)

「第51回関西学生選手権」

8月9日～11日

於 滋賀皇子山プール(50m)

○100m自由形

山本 隆	1-02-3	3位
金 一波	1-02-9	5位
田中俊哉	1-04-0	

○200m自由形

金 一波	2-24-4	
中尾 稔	2-30-5	
白子靖則	2-45-0	

○400m自由形

上田剛弘	5-05-9	5位
酒井康司	5-27-4	
亀井尚之	6-00-3	

○1500m自由形

上田剛弘	21-23-7	5位
酒井康司	22-01-2	
酒井 潤	23-31-2	

○100m平泳

富岡洋三	1-19-7	
長谷川 泰造	1-30-4	

○200m平泳

富岡洋三	2-53-1	4位
田伏正佳	3-19-3	
後藤芳光	3-23-8	

○100mバタフライ

田中俊哉	1-19-4	
高城俊介	1-32-2	

○100m背泳

杉山和弘	1-08-8	1位
太田雅彦	1-15-6	3位
館谷彰司	1-27-4	

○200m背泳

杉山和弘	2-37-0	1位
太田雅彦	2-48-7	
館谷彰司	3-07-4	

○200m個人メドレー

山本 隆	2-39-1	1位
芝 暢彦	2-40-9	3位

○400m個人メドレー

芝 暢彦	5-52-8	3位
土井和幸	7-06-9	

○400mメドレーリレー

杉山・富岡・山本・金	4-37-7	1位
------------	--------	----

○400mリレー

田中・杉山・山本・金	4-09-9	2位
------------	--------	----

○800mリレー

上田・金・酒井康・田中	9-45-9	5位
-------------	--------	----

総合

1位	大阪府立大学	80点	4位	関西学院大学	43点
2位	京都大学	62点	5位	大阪工業大学	36点
3位	神戸大学	60点	6位	滋賀大学	30点

☆ この結果、上位3校は1部に昇格、代って1部下位3校(神戸商科大学、大阪大学、甲南大学)は2部に降格。

「第13回 関西女子学生選手権」

○100m自由形

小井戸 路代 1-22-4

○200m自由形

小井戸 路代 3-08-7

○400m自由形

寺尾 紀子 6-06-0

○800m自由形

寺尾 紀子 13-07-2

○100m平泳

森田 恵 1-44-6

○200m平泳

森田 恵 3-41-1

○200mリレー

小井戸・森田・清水・寺尾 2-21-3

総合

1位	天理大学	160点
2位	大阪体育大学	81点
3位	武庫川女子大学	65点
4位	大阪大学	6.5点
5位	京都教育大学	6点
6位	関西大学	3点

※ 神戸大は入賞なしで0点。

今年の目標の「関西国公立優勝」は惜しくものがしたものの、もう一つの目標「関西インカレ一部昇格」はたやすいことだと思っていたところ、「ウイルス発生事件」によって、プール使用禁止の断が下され、練習を休むより仕方なく、再度十分な調整もできずに、試合に臨むはめにおちいったことは、今年はとことん不運な年であったとしか言いようがない。とにかく、あの関西国公立は夢か幻かと思うような内容でした。さて、本大会では記録の伸び悩みに苦しむ神大を後目に、他校はどんどん記録を更新してゆき「もしかしたら…」という気持が生じ、関学、大工大に迄おびえるといった有様だった事は、今にして思えば恥かしい限りです。しかし、一部昇格は3位に甘んじながらも果し、張りつめた糸がぶつんと切れた感じそのものでした。女子では残念ながら、1点も獲得できず、私立大の「女の姿をした男」との力の差をいやという程、見せつけられました。いやはや、疲れる試合でした。(上田記)

「第26回全国国公立大学選手権大会」

8月14・15日 於 筑波大学プール(50m)

〔男子〕

○100m自由形

田中俊哉 1-04-2

中尾 稔 1-06-1

○200m自由形

白子靖則 2-45-0

○400m自由形

上田剛弘 5-05-4

酒井康司 5-22-0

亀井尚之 5-58-8

○1500m自由形

上田剛弘 20-43-0

酒井康司 21-48-4

酒井 潤 23-15-0

○100m平泳

長谷川泰造 1-26-8

山本 徹 1-28-6

田伏正佳 1-31-0

○200m平泳

富岡洋三 2-55-3

後藤芳光 3-24-0

杉野 誓 3-25-7

○100mバタフライ

富岡洋三 1-14-3

高城俊介 1-28-5

後藤芳光 1-51-5

○200mバタフライ

田中俊哉 3-11-2

高城俊介 3-36-0

○200m個人メドレー

土井祐二 3-06-9

○400m個人メドレー

長谷川泰造 8-04-8

○400mメドレーリレー

太田・富岡・田中・中尾 5-02-8

○400mリレー

上田・田中・酒井・中尾
康 4-20-6

○800mリレー

酒井・田中・上田・中尾
康 9-56-0

総 合

1位	筑波大学	130点
2位	大阪府立大学	28点
3位	名古屋大学	28点
4位	新潟大学	24点
5位	京都大学	22点
6位	山口大学	21点

※ 神戸大は、入賞なしで0点。

「第26回全国国公立大学選手権大会」

8月14・15日 於 筑波大学プール(50m)

〔女子〕

○200m自由形			
寺尾紀子	2-51-5		
○400m自由形			
寺尾紀子	5-55-6	4位	
○100m平泳			
森田恵	1-44-5		
○200m平泳			
森田恵	3-39-1		
○200mバタフライ			
辻陽子	3-41-4	6位	
○100m背泳			
石本日和子	1-31-4		
○200m個人メドレー			
石本日和子	3-14-6	4位	
小井戸路代	3-33-1		
○400m個人メドレー			
辻陽子	7-11-8	5位	
小井戸路代	7-30-2		

○400mメドレーリレー		
石本・森田・辻・寺尾	6-10-0	
○200mリレー		
小井戸・辻・石本・寺尾	2-23-0	
○400mリレー		
小井戸・辻・石本・寺尾	5-34-2	

総合

1位	筑波大学	91点
2位	名古屋大学	51点
3位	東京学芸大学	24点
4位	奈良教育大学	23点
5位	静岡大学	17点
6位	広島大学	11点
7位	京都教育大学	10点
8位	神戸大学	9点

目標の全国々公立出場で、意気揚々と、筑波大目指して、新幹線に乗り込みたかったのですが、出場の原動力となった山本、金、そして杉山までが都合上、出場できなくなり、一変、あきらめムードが漂い、悪い予感がしていた所へ宿舎についてから、土井和、芝が発熱し、出場できなくなったことは不運というのを通り過ぎ、悪魔が取付いているのではと思われる程災難が相次ぎました。それにしても、先の二人は帰る頃にはすっかり元気になり、めでたくもあり気の毒でもあり、ですから男子は避けて女子の健闘ぶりを申しますと、辻の200バタ6位、400個メ5位、寺尾の400自4位、石本の200個メ4位、そして400リレー(小井戸・辻・石本・寺尾)の神大新と、男子の沈滞をカバーする活躍で、堂々8位に入りました。

とりわけ往年の名選手、石本の200個メでの力泳は、「ガラスの靴」を思い出させるものがありました。それにしても、大会新39という華やかな大会であったにもかかわらず、神大新1つというのは寂しい限りでした。（上田記）

「第17回近畿地区国立大学体育大会」

8月24・25日 於 彦根総合運動場SC(50m)

〔男子〕

○100m自由形

金 一 波	1-01-8	3位
田 中 俊 哉	1-04-6	
土 井 和 幸	1-12-5	

○200m自由形

金 一 波	2-27-8	6位
田 中 俊 哉	2-31-6	
白 子 靖 則	2-46-3	

○400m自由形

上 田 剛 弘	5-16-4	3位
酒 井 康 司	5-23-4	5位
亀 井 尚 之	5-56-9	

○800m自由形

上 田 剛 弘	11-09-6	3位
酒 井 康 司	11-17-6	4位
酒 井 潤	12-39-4	

○100m平泳

富 岡 洋 三	1-18-7	4位
長谷川 泰 造	1-28-7	
後 藤 芳 光	1-29-8	

○200m平泳

富 岡 洋 三	2-56-8	6位
田 伏 正 佳	3-14-2	
杉 野 誓	3-26-5	

○100mバタフライ

高 城 俊 介	1-31-3	
---------	--------	--

○200mバタフライ

高 城 俊 介	3-39-5	
---------	--------	--

○100m背泳

太 田 雅 彦	1-14-0	1位
山 本 徹	2-08-0	

○200m背泳

太 田 雅 彦	2-43-5	1位
田 伏 正 佳	4-21-7	

○200m個人メドレー

芝 暢 彦	2-44-6	3位
後 藤 芳 光	3-36-2	
長谷川 泰 造	3-37-8	

○400m個人メドレー

芝 暢 彦	5-56-1	2位
白 子 靖 則	7-08-3	

○400mメドレーリレー

太田・富岡・芝・金 4-49-9 3位

○200mリレー

田中・上田・慈幸・金
1-54-4 3位

○800mリレー

上田・酒井康・田中・金
9-49-6 3位

総合

1位	京都大学	95点
2位	大阪大学	62点
3位	神戸大学	57点
4位	滋賀大学	42点
5位	京都工繊大学	19点
6位	和歌山大学	16点

〔女子〕

○50m自由形

寺尾紀子 32-7 2位
石本日和子 34-3

○100m自由形

寺尾紀子 1-13-9 2位
小井戸路代 1-24-3

○200m平泳

森田恵 3-39-0 6位

○50mバタフライ

小井戸路代 43-4

○100mバタフライ

辻陽子 1-44-2

○50m背泳

清水万里 42-0 4位
石本日和子 42-2 5位

○100m背泳

清水万里 1-32-1 3位

○200m個人メドレー

辻陽子 3-26-0 4位

○200mメドレーリレー

清水・辻・石本・寺尾 2-41-4 3位

○200mリレー

清水・辻・小井戸・寺尾 2-22-2 4位

○400mリレー

小井戸・石本・清水・寺尾 5-10-9 3位

総合

1位	大阪教育大学	75点
2位	奈良教育大学	67点
3位	京都教育大学	35点
4位	神戸大学	34点
5位	大阪大学	27点
6位	京都大学	9点

京阪神3大学のつまずきに端を発して兵庫インカレの惜敗、関西国公立の不運、あの「ヴィールス発生事件」による関西インカレの低調、全国々公立での病人続出と厄病神に取付れた様な、(そういえば思い当る人物...)シーズンでしたが、その最後を飾るこの近国体だけは神大のド根性を見せようと思いはしたものの歴史の流れとは恐ろしいもの、ここでも上級生にさえが見えず1回生の若さとパワーにおんぶして貰うと言った形が進みました。特に太田の100・200背優勝、金の100自3位、酒井康の800自4位、400自5位と来年に向けて大きくはばたこうとする若鷲を思わせる活躍でした。若いっていい事だなあ...

追伸、帰りの電車の中で通路一杯に毛布を敷き、1回生を中心としたトランプは乗客の冷たい視線をはね飛ばす熱っぽさがあった事をつけ加えておきたいと思います。(上田記)

「第47回 旧三商大戦」

9月2日 於 一橋大学プール(50m)

〔競泳の部〕

○1000m自由形

田中俊哉 1-04-6 1位
白子靖則 1-12-4 3位

○4000m自由形

上田剛弘 5-24-9 1位
酒井康司 5-25-1 2位

○8000m自由形

上田剛弘 11-19-5 1位
酒井康司 11-25-2 2位

○2000m平泳

富岡洋三 3-00-5 2位
山本徹 3-13-8 4位

○2000mバタフライ

富岡洋三 3-21-4 4位
高城俊介 3-38-2 6位

○2000m背泳

太田雅彦 2-48-5 1位
芝暢彦 2-55-8 3位

○2000m個人メドレー

芝暢彦 2-45-2 1位
太田雅彦 2-46-1 2位

○4000mメドレーリレー

太田・富岡・芝・田中
5-02-0 2位

○8000mリレー

田中・酒井康・太田・上田
10-09-8 1位

〔水球の部〕

対市大戦

対一橋戦

(メンバー)

(メンバー)

- | | | |
|-----------|---|----------|
| 1. 亀井尚之 | : | 1. 亀井尚之 |
| 2. 芝暢彦① | : | 2. 芝暢彦 |
| 3. 上田剛弘 | : | 3. 上田剛弘① |
| 4. 酒井康司 | : | 4. 酒井康司 |
| 5. 白子靖則① | : | 5. 白子靖則 |
| 6. 土井和幸② | : | 6. 土井和幸 |
| 7. 富岡洋三② | : | 7. 富岡洋三① |
| 8. 太田雅彦 | : | 8. 太田雅彦 |
| 9. 中尾稔① | : | 9. 中尾稔 |
| 10. 慈幸弘樹② | : | 10. 慈幸弘樹 |
| 11. 土井祐二 | : | 11. 土井祐二 |

(スコア)

(スコア)

神大	Q	市大
2	I	1
3	II	1
3	III	1
1	IV	2
9	計	5

神大	Q	一橋
0	I	3
0	II	1
1	III	3
1	IV	4
2	計	11

〔競泳の部〕

総 合			
1位	神 戸 大 学	8.2点	
2位	一 橋 大 学	5.9点	
3位	大 阪 市 立 大 学	4.3点	

〔水球の部〕

総 合			
1位	一 橋 大 学	2勝	
2位	神 戸 大 学	1勝1敗	
3位	大 阪 市 立 大 学	2敗	

悪夢のような「ウイルス発生事件」によって、その開催が危ぶまれ、一部の消息筋では絶望かと目されていた三商大戦ではありましたが、一橋の主将、常盤氏の懸命の努力によって、奇跡の復活を遂げたことは喜ばしい限りであると共に、OBの方々には日程その他の点で、御迷惑をおかけしましたことを、深く御詫び致します。

ところで、試合の方ですが、競泳の部では、頭の400混継で、一橋に敗れ、一瞬やばいのはと思われたのですが、後は何なく切り抜け、面目を保ちました。

水球の部では、一橋の戦力が低下しているのが目に見えてわかりましたが、それでも大差で敗れ、屈辱感にさいなまれました。

しかし、その夜のコンパでは、試合のうっぶんもあってか、市大と亀井の競演で「コンパの市大」、「しょうもない事言いの亀井」の名をほしいままにしました。

特に、亀井の例の小話が、三商大の立て役者、常盤氏を狂喜させたことは、記憶に新しいところです。（上田記）

	0				

現役部員ベスト記録一覧

男 子

1979年9月現在

・は10傑に入っている記録を、
(L)は長水路記録を示す。

種目	氏名	学年	100m	200m	400m	800m
自由形	上田 剛 弘	4	1-04-4	2-21-5 (L)	5-05-4 (L)	10-58-1 (L)
	山本 隆	4	1-01-7 (L)	2-17-0	4-55-1 (L)	10-22-1
	亀井 尚之	4	1-09-8	2-35-0	5-41-3 (L)	11-49-0
	土井 和幸	4	1-11-1	2-59-3	6-20-0	
	白子 靖則	3	1-10-1 (L)	2-45-0 (L)	6-13-0	
	金 一 波	2	1-00-9 (L)	2-24-4 (L)		
	田中 俊哉	2	1-02-7	2-28-9		
	酒井 康司	2	1-04-7	2-25-0	5-12-3	11-10-0
	太田 雅彦	2		2-31-6 (L)		
	酒井 潤	2	1-09-4	2-34-0	5-40-0	11-32-0
高城 俊介	2		2-37-0	5-40-0		
平 泳	森 鼻 隆 夫	4	1-24-4	3-08-0		
	富岡 洋三	3	1-17-5	2-51-9 (L)		
	後藤 芳光	3	1-26-2	3-17-8		
	山本 徹	2	1-28-6 (L)	3-13-8 (L)		
	杉野 誓	2		3-25-7 (L)		
	田伏 正佳	2		3-14-2 (L)		
	長谷川 泰造	2	1-26-8 (L)	3-18-5 (L)		
背 泳	山本 隆	4		2-49-0		
	太田 雅彦	2	1-14-0 (L)	2-43-5 (L)		
蝶 泳	山本 隆	4	1-07-4	2-35-2		
	芝 嶋 彦	4		3-09-1		
	富岡 洋三	3	1-14-3 (L)			
	白子 靖則	3	1-26-5 (L)			
	高城 俊介	2	1-28-5 (L)	3-36-0 (L)		
	田中 俊哉	2	1-19-1 (L)	3-11-2 (L)		
個 々	芝 嶋 彦	4		2-40-8 (L)	5-52-8 (L)	
	山本 隆	4		2-39-1 (L)	5-25-9	
	太田 雅彦	2		2-46-1 (L)	6-29-2 (L)	

女 子

種 目	氏 名	学年	50m	100m	200m	400m
自由形	寺尾紀子	3	32-5 (L)	1-13-8 (L)	2-41-5	5-45-0
	石本日和子	2	33-9			
	小井戸路代	2		1-22-4 (L)	3-08-7 (L)	6-52-7
平 泳	森田 恵	3		1-38-9	3-34-8	
	国本温代	2			3-46-6	
背 泳	石本日和子	2	41-6 (L)	1-30-8 (L)	3-23-2 (L)	
蝶 泳	辻 陽子	3		1-32-8	3-33-4	
	石本日和子	2	38-5			
個 々	寺尾紀子	3			3-12-7	
	辻 陽子	3			3-18-4 (L)	7-09-3 (L)
	石本日和子	2			3-10-3	
	小井戸路代	2			3-33-1 (L)	7-30-2 (L)

歴 代 1 0 傑 表

(L)は長水路、(S)は短水路記録を示す。
なお、無記入は長短不明。

一〇〇〇m自由形

1	浜川 広海	学22	58-8	S.26	
	杉山 和弘	A28	58-8 (S)	S.53	兵庫インカレ(商船大)
3	村田 邦夫	J26	1-00-7 (S)	S.51	近国体 (大教大)
4	金 一 波	E 31	1-00-9 (L)	S.54	関西国公立 (大府大)
5	山本 隆	E 29	1-01-7 (L)	S.54	関西インカレ(皇子山)
6	田中 俊哉	T31	1-02-7 (S)	S.54	記録会 (六甲台)
7	丸末 一之	E25	1-02-8	S.51	
8	佐敷 定雄	A22	1-03-1	S.47	
9	中西 康之	T25	1-03-7	S.50	
10	平石 康	P26	1-03-8	S.52	

二〇〇〇m自由形

1	浜川 広海	学22	2-09-0	S.26	
2	杉山 和弘	A28	2-14-0 (S)	S.52	近国体 (六甲台)
3	山本 隆	E 29	2-17-0	S.52	記録会 (六甲台)
4	村田 邦夫	J26	2-17-5 (S)	S.51	近国体 (大教大)
5	丸末 一之	E25	2-19-9	S.51	
6	上田 剛弘	B29	2-21-5 (L)	S.54	関西インカレ(皇子山)
7	佐敷 定雄	A22	2-23-0	S.48	
8	大林 良和	M13	2-23-1 (S)	S.52	旧三商大 (六甲台)
9	木村 多加緒	J18	2-24-0	S.43	
10	金 一 波	E 31	2-24-2 (S)	S.54	兵庫インカレ(商船大)

四〇〇〇m自由形

1	山本 隆	E 29	4-55-1 (L)	S.53	記録会 (大市大)
2	杉山 和弘	A28	4-55-2 (S)	S.52	記録会 (六甲台)
3	丸末 一之	E25	5-01-5 (S)	S.51	近国体 (大教大)
4	上田 剛弘	B29	5-05-4 (L)	S.54	全国国公立 (筑波大)
5	慈幸 弘樹	P28	5-07-5 (S)	S.53	記録会 (六甲台)
6	大林 良和	M13	5-08-9 (S)	S.49	市大戦 (六甲台)
7	村田 邦夫	J26	5-12-2	S.51	
8	酒井 康司	T31	5-12-3 (S)	S.54	兵庫インカレ(商船大)
9	玉置 明	E18	5-14-7	S.43	
10	高岡 保宏	P10	5-18-1	S.34	

八〇〇m自由形

1	山本隆	E129	10-22-1 (S)	S. 53	記録会 (六甲台)
2	丸末一之	E25	10-36-3	S. 51	
3	杉山和弘	A28	10-46-1 (S)	S. 52	旧三商大 (六甲台)
4	大林良和	M13	10-48-4 (S)	S. 49	記録会 (六甲台)
5	慈幸弘樹	P28	10-52-6 (S)	S. 53	記録会 (六甲台)
6	上田剛弘	B29	10-58-1 (L)	S. 54	全国国公立 (筑波大)
7	玉置明	E18	11-00-4	S. 43	
8	木村多加緒	J18	11-04-1	S. 42	
9	酒井康司	T31	11-10-0 (S)	S. 54	記録会 (六甲台)
10	浅間啓介	E10	11-12-2 (S)	S. 36	市大戦 (六甲台)

一〇〇m平泳

1	鈴木俊彦	M17	1-14-3	S. 42	
2	慈幸弘樹	P28	1-15-3 (S)	S. 52	近国体 (六甲台)
3	平石康	P26	1-17-5 (S)	S. 51	近国体 (大教大)
	富岡洋三	B30	1-17-5 (S)	S. 54	兵庫インカレ (商船大)
5	菊田修三	T18	1-19-0	S. 44	
6	後藤信人	B26	1-19-7 (S)	S. 52	兵庫インカレ (甲南高)
7	佐藤弘之	T25	1-20-8	S. 51	
8	酒井正人	A26	1-21-5 (S)	S. 52	記録会 (六甲台)
9	安茂弘	T11	1-22-6	S. 40	
10	小林正文	E25	1-22-8	S. 51	

二〇〇m平泳

1	平石康	P26	2-45-1 (S)	S. 52	兵庫インカレ (商船大)
2	鈴木俊彦	M17	2-45-5	S. 43	
3	慈幸弘樹	P28	2-49-2 (S)	S. 53	兵庫インカレ (商船大)
4	富岡洋三	B30	2-51-9 (L)	S. 53	近国体 (大新公園)
5	後藤信人	B26	2-55-0 (S)	S. 52	兵庫インカレ (商船大)
6	阿部洋三	T15	2-55-5	S. 39	
7	菊田修三	T18	2-55-6	S. 44	
8	萩原武	T10	2-57-0	S. 36	三商大戦 (大阪)
9	小林正文	E25	2-59-3	S. 51	
10	岩切博	S19	2-59-9	S. 45	

一〇〇m背泳

1	杉山和弘	A 2 8	1-07-7 (S)	S . 5 3	記録会 (六甲台)	
2	田淵五郎	B 3	1-11-8	S . 2 7		
3	酒井正人	A 2 6	1-12-5 (L)	S . 5 1		
4	木村多加緒	J 1 8	1-12-7	S . 4 3		
5	井上隆史	B 1 0	1-14-0	S . 3 6		
	太田雅彦	A 3 1	1-14-0 (L)	S . 5 4	近国体 (彦根SC)	
7	玉木喜代明	1 9	1-14-6 (S)	S . 4 4	近国体 (大教大)	
8	岡村司	J 7	1-16-0	S . 3 3		
9	印南修三	A 2 2	1-16-7 (S)	S . 4 6	近国体 (商船大)	
10	岡見晴児	J 6	1-17-0	S . 3 1		
	☆ 長水路ベスト記録 杉山和弘			1-08-4	S . 5 3	全国国公立 (広島大)

二〇〇m背泳

1	杉山和弘	A 2 8	2-34-1 (S)	S . 5 4	兵庫インカレ (商船大)	
2	木村多加緒	J 1 8	2-34-8	S . 4 3	近国体	
3	酒井正人	A 2 6	2-35-2	S . 5 2		
4	太田雅彦	A 3 1	2-43-5 (L)	S . 5 4	近国体 (彦根SC)	
5	玉木喜代明	1 9	2-44-3	S . 4 4		
6	慈幸弘樹	P 2 8	2-46-5 (L)	S . 5 3	旧三商大 (大市大)	
7	印南修三	A 2 2	2-47-7 (S)	S . 4 6	近国体 (商船大)	
8	山本隆	EII 2 9	2-49-0 (S)	S . 5 4	記録会 (六甲台)	
9	瓜生誠二郎	E 2 3	2-49-4	S . 4 7		
10	木下雅浩	B 1 4	2-52-2	S . 4 4		
	☆ 長水路ベスト記録 杉山和弘			2-34-2	S . 5 3	全国国公立 (広島大)

一〇〇m蝶泳

1	佐敷定雄	A 2 2	1-05-2 (S)	S . 4 6	近国体 (商船大)
2	山本隆	EII 2 9	1-07-4 (S)	S . 5 3	兵庫インカレ (商船大)
3	大橋進	P 1 9	1-09-1 (S)	S . 4 4	近国体 (大教大)
4	杉山和弘	A 2 8	1-09-6 (S)	S . 5 2	記録会 (六甲台)
5	阿部洋三	P 1 5	1-10-0	S . 4 1	
6	由佐禎男	T 1 5	1-11-0	S . 4 1	
7	慈幸弘樹	P 2 8	1-11-1	S . 5 1	
8	村田邦夫	J 2 6	1-13-2 (S)	S . 5 2	兵庫インカレ (甲南高)
9	佐藤弘之	T 2 5	1-13-7	S . 4 9	
10	冨岡洋三	B 3 0	1-14-3 (L)	S . 5 4	全国国公立 (筑波大)

二〇〇m 蝶泳

1	佐敷定雄	A 2 2	2-29-6	S . 4 8	
2	山本隆	E 29	2-35-2 (S)	S . 5 3	兵庫インカレ(商船大)
3	阿部洋三	T 1 5	2-40-1	S . 4 1	
4	大橋進	P 1 9	2-48-1	S . 4 5	
5	菱田徹	T 1 8	2-51-6	S . 4 4	
6	村田邦夫	J 2 6	2-52-5	S . 5 1	
7	藤森一男	T 2 3	2-53-1	S . 4 9	
8	安部		2-56-1	S . 3 8	
9	佐藤弘之	T 2 5	2-57-2	S . 4 9	
10	武政英幸	B 1 2	2-59-5	S . 3 8	

二〇〇m 個メ

1	慈幸弘樹	P 2 8	2-33-0 (S)	S . 5 2	近国体 (六甲台)
2	平石康	P 2 6	2-39-0 (S)	S . 5 2	兵庫インカレ(甲南高)
3	山本隆	E 29	2-39-1 (L)	S . 5 4	関西インカレ(皇子山)
4	芝暢彦	E 2 9	2-40-8 (L)	S . 5 4	関西国公立(大府大)
5	酒井正人	A 2 6	2-41-9	S . 5 2	旧三商大(六甲台)
6	鈴木俊彦	M 1 7	2-44-1	S . 4 2	
7	小越信昭	T 1 4	2-44-5	S . 3 8	
8	佐敷定雄	A 2 2	2-45-6	S . 4 8	
9	太田雅彦	A 3 1	2-46-1 (L)	S . 5 4	旧三商大戦(一橋大)
10	佐藤弘之	T 2 5	2-46-8 (S)	S . 4 8	兵庫インカレ(商船大)
	☆ 長水路ベスト記録 慈幸弘樹		2-35-6	S . 5 3	全国国公立(広島大)

四〇〇m 個メ

1	山本隆	E 29	5-25-9 (S)	S . 5 3	記録会 (六甲台)
2	慈幸弘樹	P 2 8	5-44-2	S . 5 1	
3	芝暢彦	E 2 9	5-52-8 (L)	S . 5 4	関西インカレ(皇子山)
4	平石康	P 2 6	5-56-2	S . 5 1	
5	木村多加緒	J 1 8	5-58-2	S . 4 3	
6	鈴木俊彦	M 1 7	5-59-4 (L)	S . 4 2	近国体
7	酒井正人	A 2 6	6-06-0	S . 5 2	
8	佐藤弘之	T 2 5	6-15-4	S . 4 8	
9	熊岡禎二	T 1 7	6-23-5	S . 4 4	
10	太田雅彦	A 3 1	6-29-2 (L)	S . 5 4	京阪神 (京都大)
	☆ 長水路ベスト記録 山本隆		5-45-18	S . 5 3	関西インカレ(大工大)

二〇〇m 継泳

1	中尾・慈幸・山本・杉山	1-50-1 (L)	S . 5 3	近国体 (大新公園)
2	中尾・山本・酒井・杉山	1-53-5 (S)	S . 5 2	近国体 (六甲台)
3	田中・上田・慈幸・金	1-54-4 (L)	S . 5 4	近国体 (彦根SC)
4	慈幸・丸末・村田・木戸	1-55-0 (S)	S . 5 1	近国体 (大教大)
5	丸末・佐藤・伊藤・中西	1-57-3	S . 5 0	

四〇〇m 混継泳

1	杉山・富岡・山本・金	4-35-2 (S)	S . 5 4	兵庫インカレ (商船大)
2	杉山・慈幸・山本・中尾	4-37-2 (S)	S . 5 3	兵庫インカレ (商船大)
3	酒井・慈幸・山本・杉山	4-37-6 (S)	S . 5 2	近国体 (六甲台)
4	酒井・平石・慈幸・杉山	4-42-4 (S)	S . 5 2	旧三商大 (六甲台)
5	酒井・平石・杉山・村田	4-43-9 (L)	S . 5 2	関西国公立 (大府大)
6	酒井・後藤・村田・杉山	4-44-7 (S)	S . 5 2	兵庫インカレ (甲南高)
7	杉山・富岡・山本・中尾	4-45-2 (L)	S . 5 3	全国国公立 (広島大)
8	酒井・平石・慈幸・村田	4-45-7 (S)	S . 5 1	近国体 (大教大)
9	木村・鈴木・大橋・以西	4-48-5	S . 4 3	
10	太田・富岡・芝・金	4-49-9 (L)	S . 5 4	近国体 (彦根SC)
	☆ 長水路ベスト記録			
	杉山・富岡・山本・金	4-37-7	S . 5 4	関西インカレ (皇子山)

四〇〇m 継泳

1	田中・金・杉山・山本	4-06-2 (L)	S . 5 4	関西国公立 (大府大)
2	中尾・慈幸・山本・杉山	4-13-0 (L)	S . 5 3	全国国公立 (広島大)
3	村田・慈幸・平石・杉山	4-13-1 (L)	S . 5 2	関西国公立 (大府大)
4	酒井・平石・慈幸・杉山	4-19-5 (L)	S . 5 2	全国国公立 (京都大)
5	丸末・慈幸・酒井・村田	4-19-9 (S)	S . 5 1	兵庫国公立 (神商大)
6	上田・田中・酒井康・中尾	4-20-6 (L)	S . 5 4	全国国公立 (筑波大)
7	慈幸・伊藤・村田・丸末	4-21-3 (L)	S . 5 1	関西国公立 (京都大)
8	以西・玉置・熊岡・木村	4-32-2	S . 4 3	
9	中西・藤森・佐藤・佐敷	4-33-3 (L)	S . 4 8	関西国公立 (大府大)
10	丸末・長谷川・天野・佐敷	4-35-5	S . 4 8	

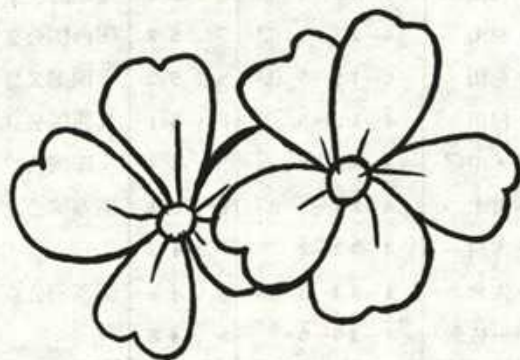
八
○
○
m
継
泳

1	中尾・慈幸・杉山・山本	9-11-9 (S)	S . 5 3	兵庫インカレ (商船大)
2	金・上田・杉山・山本	9-17-2 (S)	S . 5 4	兵庫インカレ (商船大)
3	杉山・平石・上田・山本	9-25-8 (S)	S . 5 2	近国体 (六甲台)
4	丸末・伊藤・慈幸・村田	9-33-0 (S)	S . 5 1	近国体 (大教大)
5	大林・慈幸・平石・杉山	9-36-2 (S)	S . 5 2	旧三商大 (六甲台)
6	慈幸・酒井・村田・杉山	9-44-9 (S)	S . 5 2	兵庫インカレ (甲南高)
7	上田・金・酒井康・田中	9-45-9 (L)	S . 5 4	関西インカレ (皇子山)
8	丸末・酒井・慈幸・村田	9-48-3 (S)	S . 5 1	兵庫インカレ (商船大)
9	平石・慈幸・村田・丸末	9-53-7 (S)	S . 5 1	兵庫国公立 (神商大)
10	丸末・中西・大林・天野	9-54-9	S . 4 9	
☆ 長水路ベスト記録				
	上田・金・杉山・山本 上田・田中・金・丸末	9-28-4 9-21-2	S . 5 4	関西国公立 (大府大)

(お願い)

今年度より、10傑表の記録について、その記録が樹立された試合名、プール、長水路、短水路の区別を記事にいたしました。不明箇所が多く、充分とはいえません。

10傑に名前を残されている方は、お手数ですが、お知らせ下さい。



昭和五十四年度凌泳会総会報告

昭 27 石 井 義 章

五月十三日(日)午後一時より、六甲台教官食堂に於て開催。

当日早朝東京をお立ちになった小山会長は旅の疲れも見せず、お元氣なお姿をお見せ頂きました。やがて次々と懐かしい顔がそろい、定刻開会。

議事に先立ち、小山会長より人生八十年となった今日、停年後の二十年を如何に生きるかはこれからの日本人にとって大きな問題である。これを楽しく意義あるものにするか、或は淋しく孤独の裡に送るかはその時になって慌てても間に合はない。若い内から楽しみを作り、良い友を得て老後を楽しく送れる様、今から考へておかなければならないとお話がありました。

続いてOBの自己紹介、卒業年次順に現役時代の思い出も交えて夫々面白い話やら、学生部員への激励やら……。

議事 一、五十三年度経過報告

既に五十四年度号凌泳誌に掲載済の為省略。

二、五十三年度決算報告

別掲会計報告の通り、五十四年度号凌泳誌より、会費、寄附金離出者名を一覧表にしましたが、この合計額と会計報告の収入総額と金額が食い違う為説明を求めた所、一部集計漏れありとの事、今後この様な事がない様厳重注意。

三、五十四年度予算案

予算総額六十万円、離出見込者百三十名、としたが今年は東京遠征あり又凌泳の印刷費も上って来ており、相当苦しい。

四、役員改選

小山会長は全体の会長である為、関東支部の役員から外し、代りに山口宗樹氏(昭16)に関東支部長をお願いした。更に支部強化の為、山田貴彦氏(昭37E)に支部幹事となって頂いた。又山口支部長には凌泳会副会長にもご就任頂き、これで山田常雄副会長と共に関東、関西に夫々副会長一名と云う本来の姿に戻った。

その他の役員は従来通り留任。

以上で議事終了引続いて懇親会に移り、現役員より五十三年度の活動状況並に戦績の報告、更に五十四年度の競技予定等報告あり、最後に現役員紹介、殊に今年には新入部員多く16名を数え、その中には百米で一分そこそこのものが三、四人、又平泳では二分五十秒台とか頼もしいのが居り、卒業に依る戦力低下が殆ど無い事と相俟って昨年以上の活躍が期待出来る。

(当日の出席者)

小山会長(昭7) 中井三郎(昭27) 石井義章(昭27) 富岡道雄(昭31B) 山口仁郎(昭32B) 北村敏(昭34E) 野田浩志(昭36B) 萩原武(昭37T) 久保佑四郎(昭42E) 由佐禎男(昭42T) 藤森一男(昭51T) 村田邦夫(昭53J) 酒井正人(昭53A) 平野輝雄(昭53P) 平石康(昭53P)

昭和53年度決算報告

(凌 泳 会)

収 入	
凌 泳 会 費	4 5 0,5 0 0
寄 付	1 4 6,2 0 0
	5 9 6,7 0 0

会費納入者 122名
(可納者 209名の58%)

支 出	
「凌泳」発行費	1 8 2,0 0 0
交 通 費	2 6,8 1 0
会 合 費	4 4,4 1 8
通 信 費	1 0 7,1 7 0
全日本インカレ 広 告 費	1 2,5 0 0
＃ 分担金	6,0 0 0
基 金 積 立	2 0,0 0 0
水 泳 部 援 助	1 9 7,8 0 2
	5 9 6,7 0 0

(全 国 凌 泳 会 基 金)

収 入	
繰 越 金	1 2 0,0 0 0
53年度積立金	2 0,0 0 0
	1 4 0,0 0 0

支 出	
凌泳会全国大会費	3 0,0 0 0
54年度繰越金	1 1 0,0 0 0
	1 4 0,0 0 0

(水 泳 部)

収 入	
繰 越 金	7 7,4 5 3
部 員 負 担	9 2,4 3 0 0
育 友 会 援 助	8 9,0 0 0
凌 泳 会 援 助	1 9 7,8 0 2
	1,2 8 8,5 5 5

支 出	
水 連 登 録 費	3 5,0 0 0
試 合 練 習 費	1 1 2,5 0 0
交 通 費	8,0 1 0
通 信 費	4,0 3 0
燃 料 費	1 3,5 0 0
設 備 消 耗 品 費	6 0,4 4 5
会 合 費	3 3 5,5 0 8
衛 生 費	5 4,8 6 0
合 宿 費	5 5 5,8 0 2
体 育 会 費	1 0,9 5 0
体 育 見 舞 金	3,0 0 0
雑 費	6,6 3 7
繰 越 金	8 8,3 1 3
	1,2 8 8,5 5 5

昭和54年度予算

(凌泳会)

収 入	
凌泳会費	520,000
寄 付	80,000
600,000	

(4,000円×130名)
(130名は可能者209名の
62%)

支 出	
「凌泳」発行費	200,000
会 合 費	40,000
通 信 費	120,000
交 通 費	40,000
基 金 積 立	20,000
水泳部援助	180,000
600,000	

(全国凌泳会基金)

収 入	
繰越金	110,000
54年度積立金	20,000
130,000	

支 出	
55年度繰越金	130,000

(水泳部)

収 入	
繰越金	88,313
凌泳会援助	180,000
育友会援助	60,000
部費負担	552,687
881,000	

支 出	
水連登録費	4,000
試合練習費	150,000
交通・通信費	10,000
燃料費	25,000
設備消耗品費	90,000
会 合 費	300,000
合 宿 費	300,000
雑 費	2,000
881,000	

昭和54年度凌泳会費寄付金献出者御芳名

54年度会費は四千元。それ以上の額については、残りは寄付金とさせて頂きました。

・三月末日現在

御氏名	献出額
山田 幸男	一万円
白山源三助	五千元
小山賢之助	一万円
草野 嘉一	二千元
山田 常雄	二万円
熊野 利夫	五千元
宮本 伯夫	四千元
桑川 義男	四千元
以上会費免除者 につき金額寄付 金扱い。	
小池 三郎	四千元
大野 整	四千元
野村 弘	四千元
山村 宮男	四千元
伊藤 英二	四千元
太田 正元	四千元
大内 義仁	四千元

御氏名	献出額
中村 市治	一万円
吉野 栄	四千元
鈴木 啓介	五千元
堀部喜代次	四千元
森 芳夫	四千元
山口 宗樹	七千 五百円
前田 寿	五千元
平井 洋	一万円
岡本 忠男	四千元
木村京一郎	四千元
熊野 泰己	四千元
荻野 茂希	四千元
富中 暁	四千元
古川富貴夫	四千元
神原 正	四千元
君塚 英男	四千元
稲垣 信夫	四千元

御氏名	献出額
山内 利男	四千元
山崎 健吉	四千元
三宅 林	五千元
石井 喬	四千元
齊藤嘉一郎	四千元
武内信一郎	四千元
山越 重義	四千元
岡庄一郎	五千元
小西 信次	五千元
牛島 修	四千元
大西 繁	四千元
佐脇 鷹平	四千元
北野 誠良	四千元
中川 正敏	四千元
石井 義章	一万 九千元
中井 三郎	五千元
浜川 広海	四千元

御氏名	献出額
前原 俊夫	四千元
関山 道晴	四千元
小原 祥男	四千元
遠山 節朗	四千元
岡沢 幹夫	五千元
田淵 五郎	四千元
神原 修造	四千元
堂本 直正	一万 一千元
辻村 亮介	四千元
橋本 力	四千元
富岡 道雄	一万四千 三百円
松田 司朗	一万 一千元
山口 仁郎	九千元
前田 宗雄	四千元
細田 忠雄	四千元
岡見 晴児	四千元
阿部 雅	四千元
岡村 司	五千元
北村 敏	八千元
栄川 泰介	五千元
河村 雅彦	一万円

御氏名	献出額
前田 修	四千元
永野 一彦	四千元
村岡 英樹	四千元
小郷 謙	四千元
黒田 英雄	一万円
原 謙三	四千元
宇賀 史郎	四千元
上村 久治	四千元
酒井 孝栄	五千元
野田 浩志	一万 二千元
井上 隆史	四千元
萩原 武	九千元
高岡 保宏	四千元
山田 貴彦	四千元
米田 啓祐	四千元
太田 斎	五千元
浅間 啓介	四千元
丸山 卓也	四千元
荒井 康之	四千元
鈴木 剛弘	四千元
平岡 昭朗	八千元
窪田 信雄	四千元
藤岡 治男	五千元

御氏名	献出額
林 莊八郎	四千元
武政 英幸	五千元
鈴木 正弥	五千元
山本忠比古	四千元
堤 莊祐	四千元
北村 義彦	四千元
丸山 昱也	五千元
前田 和秀	四千元
横田 興二	四千元
石原 紘三	四千元
山口 幸郎	四千元
樋口 周平	四千元
木下 雅浩	四千元
中畑 勝明	四千元
宮部 高博	四千元
久保佑四郎	四千元
由佐 禎男	四千元
阿部 洋三	五千元
鈴木 俊彦	四千元
熊岡 禎二	四千元
木村多加緒	四千元

御氏名	御出額
井上与志男	四千元
以西吉一	四千元
得丸哲士	五千元
岩切博	四千元
大橋進	一万元
小林育夫	四千元
藤井元洋	四千元
佐敷定雄	四千元
長谷川健	五千元
印南修三	四千元
植西勝	一万元
瓜生誠二郎	一万元

御氏名	御出額
大曲芳郎	四千元
藤森一男	一万元
上田敏彦	四千元
松山玄彦	四千元
細谷明夫	四千元
野田叔子	四千元
川本典子	四千元
丸末一之	四千元
佐藤弘之	一万元
小林正文	四千元
伊藤良一	五千元
浦本幸二	四千元

御氏名	御出額
浜西美智子	四千元
平石康	四千元
後藤信人	四千元
酒井正人	五千元
塩浜英二	四千元
阿部誠次	四千元
平野輝雄	一万三千六百円
木下修一	四千元
村田邦夫	四千元
粟野正子	四千元
有本智恵	四千元

(敬称略させて頂きました)

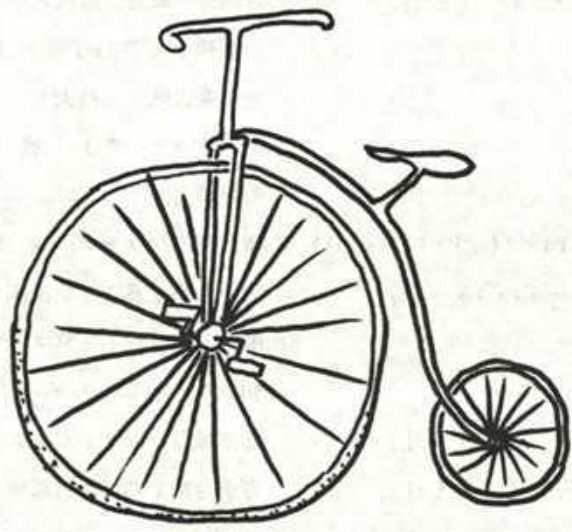
以上合計 七七六、四〇〇円

(一四九名)

会費合計 五六四、〇〇〇円

(一四一名)

寄付金合計 二二二、四〇〇円



昭和54年度行事報告

- 3/20(火)～ 3/23(金) 春季練習(大阪、森の宮屋内プール)
- 5/13(日) 凌泳總會(六甲台教官食堂)
- 5/26(土) 新入生歓迎コンパ(五毛会館)
- 6/10(日) 京阪神三大学戦(京都大)
- 6/11(月)～ 6/23(土) 強化練習(午前、午後の2部練習)
- 6/24(日) 関西ポロリーグ戦(大阪市大)
- 6/26(火)～ 6/30(土) 第一次合宿(競泳のみ)
- 7/1(日) 兵庫インカレ(神戸商船大)
- 7/14(土)・7/15(日) 関西国公立戦(大阪府大)
- 7/22(日) 市大戦(六甲台)
- 7/24(火)～ 7/26(木) 第二次合宿(水球特訓)
- 8/3(金)～ 8/6(月) 強化練習
- 8/9(木)～ 8/11(土) 関西インカレ(滋賀皇子山プール)
- 8/14(火)・8/15(水) 全国国公立戦(筑波大)
- 8/16(木) 東京地区のB回り
- 8/24(金)・8/25(土) 近国体(滋賀、彦根スイミングセンター)
- 8/31(金) 京阪神三大学Jr.戦(京都大)
- 9/2(日) 旧三商大戦(一橋大)
- 9/9(日) 関西ポロリーグJr.戦(大阪市大)
- 9/15(土) 月見の宴
- 10/28(日)・11/3(土)・11/4(日) 体育祭(ソフトボール、駅伝参加)
- 11/16(金)～11/18(日) 六甲台祭(うどん屋出店)
- 12/8(土) 追出しコンパ(三宮コトブキ)
- 1/13(日) 初泳ぎ(かるもプール)
- 3/28(金)～ 3/31(月) 春季練習(佃スイミング・スクール)
- 4/2(水)～ 4/6(日) 春季合宿(鳥取浜村温泉)

凌 泳 会 会 則

第一章 總 則

第一條(名稱) 本会は凌泳会と稱する。

第二條(事務所) 本会は事務所を神戸市灘区六甲台町神戸大学に置くこととし、宛名は同大学学生課気付「凌泳会」とする。

第三條(目的) 本会は会員相互の連絡と親睦を図ると共に、神戸大学水泳部の発展に寄与することを目的とする。

第四條(事業) 本会は前条の目的を達成する為に左記の事業を行なう。

一、会誌「凌泳」の発行

二、会員相互の連絡

三、定例總會及び各種の親睦会合

四、神戸大学水泳部発展の爲の指導及び援助

五、その他、本会の目的を達成するに必要な事項

第五條(会則の改廢) 本会則の制定及び変更は總會の決議によって行なう。

第二章 会 員

第六條(会員) 本会の会員を分けて正会員、特別会員、及び在学会員とする。

第七條(正会員) 正会員とは、次のものを云う。

国立神戸高等商業学校 国立神戸商業大学 神戸経済大学 神戸大学

以上の諸学校に於て在学中水泳部に所属したもの。

第八條(特別会員) 特別会員とは次のものを云う。

第九条（在学会員）

一、前条の諸学校で水泳部々長及び副部长であった者及び現在ある者。
二、その他、総会の決議によって推薦した者。

現在、神戸大学々生で水泳部に所属する者。

第十条（会費）

正会員は会費として年額四、〇〇〇円を当会へ納入する。
但し卒業後四十四年を経過した者は会費を免除する。

第三章 役員

第十一条（役員）

本会には左記の役員を置く。

会長	一名
副会長	二名
監事	若干名
幹事長	一名
本部幹事	若干名
支部幹事	若干名

第十二条（改選）

役員は改選は総会の決議によって行なう。

第十三条（任期）

役員は任期は一年とし再選を妨げない。

第十四条（会長）

会長は本会を代表し且つ統轄する。

第十五条（副会長）

副会長は会長を補佐し、会長事故ある時はこれを代行する。

第十六条（監事）

監事は本会の会務及び会計を監査する。

第十七条（幹事長及び本部幹事）

幹事長及び本部幹事は会長、副会長を補佐し總括的会務の執行に当る。

第十八条（支部幹事）

支部幹事は各支部の事務を執行すると共に、本部の諸活動に協力する。

第四章 総 会

第十九条（招 集）

総会は少くとも二週間以前に会議の目的を明らかにした通知を以って会長がこれを招集する。

第二十条（時 期）

総会は毎年五月に開催するものとし、臨時総会は必要に応じて招集する。

第二十一条（議 決）

総会の決議は出席正会員の過半数をもって決する。

但し、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席とみなす。

第五章 会 計

第二十二条（経 理）

本会の経理は、会費・寄付金及びその他の収入によって賄う。

第二十三条（決 算）

本会の収支決算については、会計の監査を経た上、春季総会に於て報告しその承認を受ける。

第二十四条（期 間）

本会の会計年度は、毎年四月一日より翌三月三十一日までとする。

第六章 雑 則

第二十五条

本会則は、昭和五十三年五月十三日より発効する。

凌泳会役員名簿

会 長	小山 賢之助(学1)	
副 会 長	山田 常雄(学1)	山口 宗 樹(学10)
監 事	空 席	
幹 事 長	石井 義章(学22)	
幹 事	萩原 武(新10)	玉置 明(新18)
會計担当幹事	長谷川 健(新22)	
凌泳編集幹事	堤 荘 祐(新12)	
支部 幹 事		
〔関東〕	支部 長 山口 宗 樹(学10)	山田 貴 彦(新10)
	浜川 広海(学22)	永野 一 彦(新8)
	空 席	
〔中部〕	大内 義 仁(学8)	
〔中国〕	中村 市 治(学9)	
〔四国〕	印 藤 勝 美(学13)	
〔九州〕		
〔関西〕		
京都	柳本 正雄(新10)	
大阪	玉置 明(新18)	井上 与志男(新18)
姫路	山口 仁 郎(新5)	

凌泳会會員名簿

物故會員

藤井 正太郎	多田 徳雄	小笠原 房穂	中村 精一	加納 曾茂	野田 曾一	岡本 幸一	榊原 零一	山本 零一	山下 虎蔵	鈴木 不羈雄	繁益 繁治郎	古林 喜楽	三輪 嘉一郎	高田 寿三	大谷 親之輔	旧姓 (井関)
特	特	大 10 高 15	10	11	11	12	12	12	13	14	14	14	15	15	21	昭 2

大島 勝利	中村 毅	浅野 猛雄	田川 亮一	阪本 豊一	作田 耕三	東光 武三	川西 武雄	太田 清	土肥 駒次郎	鍵本 芳次	小西 熊雄	片山 四郎	柴口 昌二	村上 秀造	高橋 徹
昭 2 高 21	2	3	3	3	3	4	7	7	8 学 2	9	11	12	13	13	13

和泉 真弘	松木 拓勇	新原 一郎	部坂 克夫	恩地 正伍	鈴木 啓介	井上 正幸	柏木 慶三	稲垣 三	山口 八	池田 勲	前田 礼治	伊藤 一	衣川 昭郎	中島 昭	今井 彰
昭 14 学 8	14	15	16	16	16	16	16	16	17	18	19	21	24 新 1	28 1	30 3

商 神

1. 商神彩なす翹をあげて
靈杖遙に東を指せば
靈しき果実は雲間を漏りて
秋津島根に落つとぞ見えし
所はここぞ菊水かおる
渙河原の近きほとりに
かく伝わりし天のさとしも
人はさとらで幾年か経ぬ
2. 神の息吹のこもりて成りし
靈果いかで地に朽つべき
豊栄のぼる朝日のかげに
八州の外の潮風吹きて
いつしか催す気運に乗じ
わが学校ぞ世に生まれたる
眠る商界夢さますべき
使命は天の授けし所
3. 此処摩耶の山六甲の峰
連り亘る山ぶところに
数の若鷹はぐくまれ居て
静かにうかぶ雲の行きかい
朝妙なる琴のひびきは
敏馬の浜に松を吹く風
夕やさしき舞の姿は
茅渚の浦曲に白帆行く影
4. 希望に満てる春の潮の
寄せてはかえす清き渚や
熱誠もゆる夏の盛りを
いたわる風の葦合の里
須磨や明石をかけて照るらん
月には物のあわれをぞ知る
冬は凍たる後に嵐
奔馬空行く勢示す
5. 天れ山水の秀麗の気は
偉人傑士を起たしむとかや
天の使命を胸に収めて
清き自然に抱かれながら
筋骨鍛え智徳を研く
切磋琢磨の三年の春秋
養い得たるうつ勃の意気
抱負を語れや干余のおのこ
6. 金歌無欠の三千余年
かがやく光は劍の蒼
心はおなじ大和男子の
我等は牙を執って起ちなん
日出ずる旗を高くかざして
日入らぬ国と手を携えて
目ざす平和の戦の場に
匂り御国の花ぞ咲かせむ
7. 雄飛の時ぞとねぐら離れて
野に立出ずる蒼涼幾羽
爪も研ぎぬ力も足りぬ
尋にも余るつばさを張れば
枝の百鳥皆おそれ伏す
扶揺万里の風を起して
おのが向々東に西に
雲に突き入る勢見るや

商

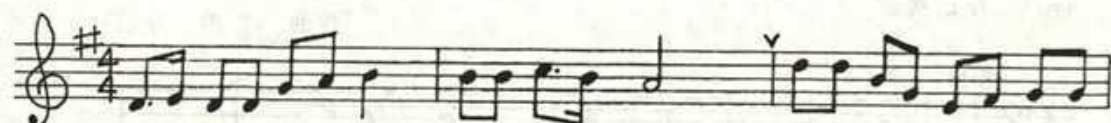
神

しょうしん あやなす つばさをあげて
 れいじょう はるかに ひがしをさせば
 くしき このみは くもまをもりて
 あきつー しまねに おつとぞ みえしと
 こーろは ところき くすいか おるみ
 つなどが わらのち かきほとりに
 かくつたわりしあめのさとしも
 ひとはさとらで いくとせかへぬ

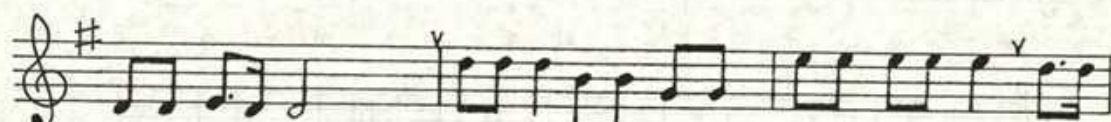
水 泳 部 歌

作詩 古林 喜楽

作曲 山田 貴彦



1. ま やろっこりに いだかれて ここむこがおかの
 2. フリー ブレスト バタフライ バックリレーに
 3. ああなつかしの すいえいぶ ろっこうだいの -



みず きよし ちぬのうらわを みおろしてしぶ
 ポロまでも ぬうえいけんじの いきたかしいざ
 ブールベに つきみのえんで - およぎやめくる



き(しぶき) をあー げ る け ん だー ん じ
 や(いざや) - きそ わ ん う で を - ぶ し
 な(くるな) つまっ - て い き り - た つ

一、摩耶六甲に抱かれて

ここ六甲ヶ丘の水清し
 茅渚の浦曲を見下して
 しぶきをあげる健男子

二、フリー ブレスト バタフライ

バック リレーにポロまでも
 凌泳健児の意気高し
 いざや競わん腕を撫し

三、ああ懐しの水泳部

六甲台のブルベに
 月見の宴で泳ぎ止め
 来る夏待っていきり立つ

宇宙を股に

神戸大学応援歌

作詩 古林 喜楽

作曲 竹内 平吉

勇壮に元気よく

ま や ろ っ こ う に い だ か れ て
 み ど り の そ の に は な ふ り か へ る
 こ こ か の 一 べ の わ こ う ど が
 も ゆ る お も い を む ね に ひ め
 ま な ぶ や ゆ う ひ の と き を き し

一、

摩耶六甲に抱かれて
 緑の園に花ふりかかる
 ここ丘の上の若人が
 燃ゆる思いを胸に秘め
 学ぶや雄飛の時を期し

二、

ヒマラヤ杉を背に受けて
 茅渚の浦ゆ紀伊の山
 右手に四国よ淡路島
 左手にうかぶ金剛山
 大らかにぞ抱負わく

三、

燃ゆる紅葉たそがれて
 宵聞せまる山路を踏めば
 真理に挑む若鷹が
 ネオンの海を見おろして
 いよよ決意をかたむ哉

四、

身に沁みわたる峯おろし
 冬来りなば春近し
 巢立つ晴れの日時せまる
 翼ひろげて悠然と
 宇宙を股に羽ばたかん

栄光は常にわれらに

神戸大学応援歌

作詞 敷島富四雄

作曲 黒田 浩一

編曲 土橋 康宏

たて や た - て われらがえらばれ
しせんし ぼこのたかき ほまれにかけ て た
だ めさす しゅうりのかむり
ふる えいざ ふる - え ちからのかぎり かがやかんえい
こうはつ - ね に われら - に -
こうべこうべこうべ われらがこうべだいが - く ゆけ

一、

起てや起て

われらが選ばれし戦士
母校の高き誉にかけて

ただ目指す勝利の栄冠

振るえいざ振るえ力の限り

輝かん栄光は常にわれらに

神戸 神戸

われらが 神戸大学

二、

征けや征け

われらが選ばれし戦士

若人の大き誇を秘めて

胸深く制覇の誓

振るえいざ振るえ雄々しく強く

輝かん栄光は常にわれらに

神戸 神戸

われらが 神戸大学

三、

聞けや聞け

われらが選ばれし戦士

青春の若き血潮たぎらせ

相和するかちどきの歌

振るえいざ振るえ意気いや高く

輝かん栄光は常にわれらに

神戸 神戸

われらが 神戸大学

編集後記

若葉の緑が目映える今日この頃、クラブにも優秀な新入部員が加わり、活気あふれる毎日です。本年も素晴らしい戦績を残せる様、部員一同、冷水にもめげず元気に泳いでおります。

さて、本年度凌泳を、ようやく発行する事ができました。本号では昨年の市大戦60周年にちなんだものを中心に、多くの方々から御寄稿をいただき誠にありがとうございます。次号には更に多くの御寄稿をいただきます様お願い致します。

それから本号より戦績の箇所各試合の寸評また主な試合については観戦記を載せる事に致しました。多少読みにくくなりますが何卒御了承下さい。

最後に会員名簿におけます誤りその他お気づきの点がございましたら、ぜひお知らせ下さい。

白子靖則

昭和五十五年五月十一日発行

発行所 神戸市灘区六甲台町二

凌泳会
神戸大学水泳部

原稿等郵送宛先

▽六五七 神戸市灘区六甲台町二

神戸大学水泳部

会費等振込口座

郵便振替口座番号

神戸一三三一

加入者名

神戸大学凌泳会

編集 神戸大学水泳部凌泳編集係

発行者 白子靖則

印刷所 神戸市東灘区住吉町垣ノ内三

小野印刷株式会社

電話(〇七八)八五一〇六〇一